高教研年報

第 59 号

令 和 元 年 度

新潟県高等学校教育研究会

巻頭言

令和元年度高教研年報の発刊によせて

新潟県高等学校教育研究会会長
（新潟県立新潟南高等学校長）
石 井 一 也

新潟県高等学校教育研究会は、新潟県の高等学校教育を振興発展させることを目的として昭和 23 年(1948 年)に設立され、永きにわたり本県の後期中等教育に携わる教職員の研究・研修活動の一端を担ってまいりました。令和元年度もこの目的を達成するため、16 の部会において調査研究、研究協議会・講習会・講演会・展覧会等の開催、研究誌・機関紙の発行等に取り組みました。今年度も、共通目標として以下の 2 点を掲げて進めました。

1　全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力の育成＜共通性の確保＞
2　多様な学習ニーズへのきめ細やかな対応＜多様化への対応＞

さて、2022 年度から年次進行で実施される次期高等学校学習指導要領の一部が先行実施となり、各校において探究活動が導入されることとなりました。また、教員の働き方改革についても具体的なガイドラインが示され、次年度からは本格的に様々な改善が求められています。一方で、予測困難な時代において、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、判断して行動できる力を育み、明るい未来を創造する力としていくことが、より強く学校教育に求められています。大きな変化の時代にあって、学校教育に課せられた使命はより大きなものとなっていると感じています。教員の勤務に対する意識改革が求められる中で、学校教育が担う人材育成の目的には何ら変わるところはありません。

これまで各部会で取り組んでいただいてきた主体的・対話的で深い学びに向けた研修を継続・発展させるとともに、他県に比べて環境整備が遅れている ICT の活用についても、今後は積極的に取り入れていく必要があると考えます。また、学習内容の定着や学習習慣の確立を目的とする課題の在り方も「主体性」の観点から改めて考え直す時期が来ているように思います。各校で、新学習指導要領に則った教育課程の編成も大詰めを迎えているところですが、実質的な授業時数減が避けられない現状から、学校教育、特に授業そのものの在り方について抜本的に見直す時期が来ているのかもしれません。

今後の高教研の活動でも現在の様々な課題について研修内容に積極的に反映させていただき、課題の共有と課題解決に向けた協働につなげていただくことを期待しています。当会といたしましても、新潟県の高等学校教員による教育研究の場として、高教研が今後とも一層魅力あるものとなるよう努力してまいります。これからも引き続きご協力くださいますようお願い申し上げます。

巻頭言「令和元年度高教研年報の発刊によせて」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・会長　石井　一也

令和元年度各部会事業報告

１　国　　語・・１

２　地理歴史・公民・・・２

３　数　　学・・・３

４　理　　科・・・４

５　芸　　術・・６

６　英　　語・・・１２

７　農　　業・・・１５

８　工　　業・・・１８

９　商　　業・・・２３

１０　水　　産・・２５

１１　家　庭　科・・・２８

１２　保　健　体　育・・・３２

１３　生　徒　指　導・・・３３

１４　図　　書・・３４

１５　視　聴　覚・・・３５

１６　定　　通・・３６

〈研究会一覧〉・・３７

令和元年度　理事会記録・・・７９

令和元年度　活動から・・８５

令和元年度　収入支出決算書・・８６

令和元年度　役員・・８８

（　理事・会計監査委員・　委員・部会幹事および部会会員数・事務局幹事　）

新潟県高等学校教育研究会規約・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９１

令和元年度事務局日誌抄・・９５

編集後記　幹事・・・９６

国語部会

1　運営委員会

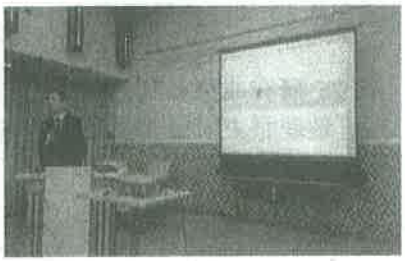
令和２年１月27日（月）13:00～14:00じょいあす新潟会館で運営委員会を開催しました。今年度は、諸事情により部長と副部長がメールで連絡を取って、今後の方針案を相談してきました。それを受けて、次年度の方針も含め、この運営委員会で確認できました。

今年度は、全県研究協議会で新学習指導要領と教育課程編成について情報交換を行うこと、「国語研究」の第66号刊行することを確認し、次年度の研究発表の方針について意見交換をしました。

2　総会・全県研究協議会

令和２年１月27日（月）14:30～16:30じょいあす新潟会館で全県研究協議会を開催し、58名の参加がありました

今年度のテーマを「新学習指導要領における国語科目の理解と対応について」と設定し、最初に、新潟県立教育センター指導主事中村敬行様から「新学習指導要領における指導と課題」と題し、講話をしていただきました。国語科改訂の趣旨及び要点について、パワーポイントを使いながら、わかりやすく解説してくださいました。特に、今までの科目「国語総合」の「総合」の意味は、現代文と古典の「総合」ではなく、「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」の「総合」あり、このような資質・能力のベースで考えていくことが、新学習指導要領の科目の理解にとって、重要な要素であるという指導がありました。また、高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説の中から、指導の改善・充実や言語活動の創意工夫について、詳しく説明がありました。



総会として、富樫信浩部長から国語部会の現状と次年度の方針について説明がありました。その後の研究協議会は小竹聖一副部長が司会を務めました。まず、参加校から出た質問に対して中村指導主事が回答し、次に各校代表者から新教育課程の編成状況について、報告してもらい情報交換を行いました。

各校の進捗状況は、まだ編成途中という学校が多い中で、必履修科目の「現代の国語」「言語文化」を２単位ずつで開講したいという学校と、言語文化は３単位で開講したいという学校がありました。選択科目の設定については、「論理国語」と「文学国語」の標準単位が各４単位ずつということで、非常に難しい選択であり、決めかねているという現状が報告されました。その中で、「学校設定科目」を設置し、複数科目の利点を合わせたものにしたいという方針の学校もありました。

「論理国語」と「文学国語」の科目設定については、新聞や雑誌等で様々な論調で「文学の軽視につながる」などと批評されています。国語の教員としては、様々な意見があることを承知した上で、各学校の生徒に必要な資質、能力を育成するための科目設定になるように工夫していかなければならない、という認識を共有しました。

3　刊行物

「国語研究」第66集を刊行にあたっては、会員からの寄稿が増え、今後の活動の活性化に期待しているところです。令和元年度の事業にご理解・ご協力をいただいた皆様に感謝申し上げます。

地理歴史・公民部会

1．　総会・研究協議会

期　日　令和元年６月 28 日（金）
会　場　駅南コミュニティセンター
１　議事
（１）令和元年度役員改選
（２）平成 30 年度事業報告
（３）平成 30 年度決算報告
（４）令和元年度事業計画
（５）令和元年度予算案
（６）その他
２　研究協議会
○講演
「ＧＩＳを活用した新科目『地理総合』のあらたな可能性」
講師　にいがたＧＩＳ協議会
会長　坂井　宏子　様
○基調講演
「新学習指導要領の学習の構造－歴史領域科目を中心に－」
講師　国立教育政策研究所
教育課程調査官　藤野　敦　様
参加者　３６名

（６月 28 日　総会・研究協議会①）

（６月 28 日　総会・研究協議会②）

2．　地理研究会

期　日　令和元年８月 20 日（火）
会　場　中条高校など
当番校　中条高校
協力校　新潟東高校
○巡検
テーマ「胎内市の産業、資源、自然と歴史」
（コース）新潟製粉株式会社→中条グランドホテル（昼食）→シンクルトン記念館・石油公園→乙宝寺→どっこん水湧水地
参加者　１３名

（８月 20 日　地理研究会）

3．　公民研究会

期　日　令和元年 11 月 26 日（火）
会　場　県立長岡向陵高等学校
○実践発表
「トゥールミン・モデルを活用した知識構成型ジグソー法による授業」
（発表者）
正徳館高等学校教諭　小林　真也

○基調講演
「新必修科目「公共」とは何か？「公共」の授業の創り方」
講師　福井大学学術研究院教育・人文社会系部門教授　橋本　康弘　様
参加者　２５名

（９月 26 日　公民研究会）

4．　研究成果の刊行

『地理歴史・公民研究』第５８集の刊行

数学部会

1　全県研究会

(1) 数学教育研究会

期　日　令和元年７月２日（火）
場　所　じょいあす新潟会館
講　師　新潟大学理学部数学プログラム教授
　　三浦　毅　様
講　演
『数学と最近の理学部と私』
研究発表
『新潟大学入学試験問題の分析について』
　　県立新潟南高等学校教諭　前田　振
参加者　８５名

三浦先生の講演

(2) 全県研究協議会
　兼北陸四県数学教育研究（長岡）大会

期　日　令和元年１０月２５日（金）
場　所　長岡市立劇場
講　師　東京理科大学特任副学長
　　兼理数教育研究センター長
　　秋山　仁　様
講　演
『五感を総動員して、創造性を深めよう』
研究発表
『生徒が先生になる授業～生徒自身が「教える」ことで理解を深める取り組み～』
　　県立高田北城高等学校教諭　村山　勝彦
『学習から学問～～「問い」と「解決」における数学の役割～』
　　県立三条高等学校教諭　山上　達郎
『平成３１年度新潟大学入学問題の分析』
　　県立新潟南高等学校教諭　前田　振
参加者　約９０名

2　地区研究会

(1) 中高連絡協議会

期　日　令和元年１１月１１日（月）
場　所　新潟県立新潟江南高等学校
講　師　新潟市中学校教育研究会数学部顧問代表
　　新潟市立小合中学校長　皆川　宏志　様
班別協議
『主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善について』
公開授業
　　県立新潟江南高等学校教諭　渡邉　正
　　阿部　英敬　小湊　知見
　　江村英里花　坪井　温子
　　鈴木　孝紀　石塚　正宏
参加者　４３名

(2) 上越地区研究協議会

期　日　令和元年１１月２９日（金）
場　所　柏崎市産業文化会館
講　師　横浜市立大学学長補佐
　　医学部臨床統計学主任教授
　　データサイエンス推進センター長
　　山中　竹春　様
講　演
『データサイエンスが切り開く日本の未来』
研究発表
『生徒が先生になる授業～生徒自身が「教える」ことで理解を深める取り組み～』
　　県立高田北城高等学校教諭　村山　勝彦
『学習から学問～～「問い」と「解決」における数学の役割～』
　　県立三条高等学校教諭　山上　達郎
参加者　７４名

山中先生の講演

3　会議

期　日　令和元年度７月２日（火）
場　所　じょいあす新潟会館
議　題　(1)平成３０年度事業・決算報告
　　(2)令和元年度事業・予算案審議
出席者　８５名

4　広報・研究成果の刊行

(1)令和元年度数学部会会員名簿の発行
(2)「数学教育研究集録」第５８号の刊行

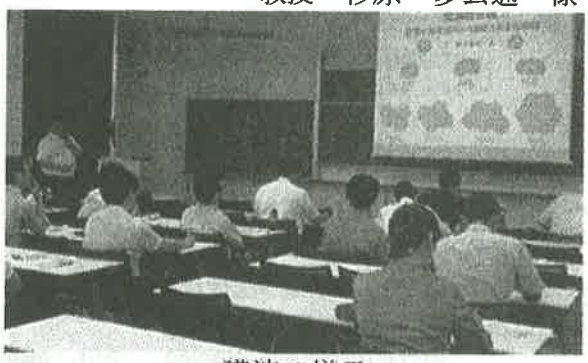
理科部会

R2 事業計画　予算案
その他

1　役員会

【1】第1回役員会

1　期　　日　令和元年7月9日（火）
2　会　　場　新潟薬科大学
3　参 加 者　29名
4　議　　題　H30 事業報告　決算報告
　　R1 事業計画　予算案
　　役員改選　その他
5　講　　演
「『窒素酸化物』考：有機反応というフィルターを通して窒素酸化物を考える～」
　新潟薬科大学薬学部
　　教授　杉原　多公通　様



講演の様子

科目別打ち合わせの様子

【2】第2回役員会

1　期　　日　令和2年1月31日（金）
2　会　　場　新潟県立植物園
3　参 加 者　19名
4　議　　題　R1 事業報告　決算報告

2　研究会

【1】物理教育研究会

1　期　　日　令和元年10月30日（水）
2　会　　場　県立三条高等学校
3　参 加 者　22名
4　研究主題　「魅力ある理科の授業」
5　研究発表
「フッ素樹脂の摩擦係数」
　新潟県央工業高等学校　山本　岳
「体験入学で体験してもらったこと」
　新潟高等学校　小熊　好弘
「生徒実験の進め方についての一考察」
　新潟中央高等学校　本田　崇
「生徒による実験」
　長岡大手高等学校　藤石　碧
「箔検電器を用いた電流のイメージ形成の授業実践」
　高田北城高等学校　小林　力
6　研究協議
「新学習指導要領における『探究』の実践」
7　講　　演
「医療における物理学
～医学物理学と医学物理士～」
　新潟大学大学院保健学研究科
　　准教授　宇都宮　悟　様

講演の様子

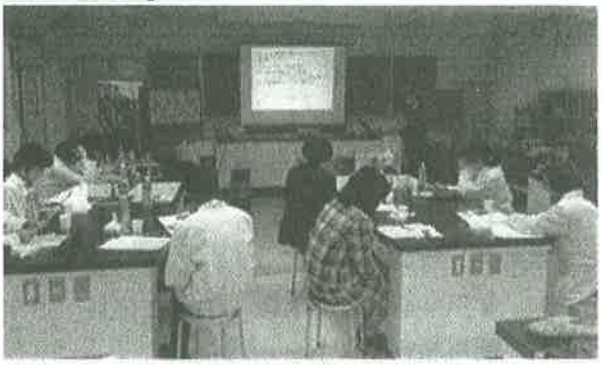
【2】化学教育研究会

1　期　　日　令和元年11月11日（月）

4　講　　演
「小型燃料電池の制作　～実験を通した主体的・対話的で深い学びに向けて～」
都留文科大学教養学部学校教育学科
特任教授　山田　暢司　様

5　研究発表
「Office365 Teams を活用した授業実践
～ほぼ無料で授業の ICT 化を進めたい～」
高田高等学校　関沢　秀栄

6　研究協議
「高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）について」

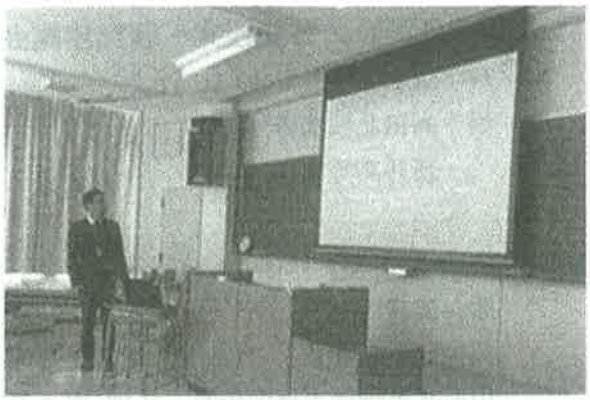


研究発表の様子

【3】生物教育研究会

1　期　　日　令和元年 11 月 20 日（水）
2　会　　場　県立新潟南高等学校
3　参 加 者　25 名
4　研究発表
「柏高 SSH の現状」
柏崎高等学校　増井　陽子
「各種学会の『高校生ポスター発表』を活用した研究指導」
新潟中央高等学校　増村　英夫
「海からの贈り物」
新潟南高等学校　間島　絵里子
「免疫分野の内容と指導」
高田南城高等学校　宮本　俊彦
5　講　演
「高校の設備や時間割の中での課題研究の実践例」
新潟南高等学校　教諭　新野　貴大　様
「生徒が主体的に研究にのめり込む、互恵的で生産的な研究班への導き方」
日本歯科大学新潟生命歯学部
教授　長田　敬五　様

6　授業参観
新潟南高校 SSH 事業　2 年生普通コース
課題研究「江風 SSG」

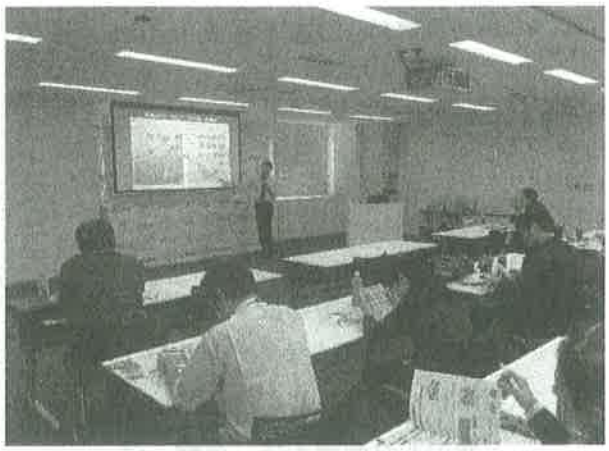


研究発表の様子

【4】地学教育研究会

1　期　　日　令和元年 10 月 30 日（水）
2　会　　場　新潟地方気象台
3　参 加 者　14 名
4　講　　演
「新潟県における近年の異常気象・気象災害について」
新潟地方気象台
気象情報官　永田　俊光　様

5　施設見学



講演の様子

3　刊行物

理科研究集録　第 59 号

芸術部会

１総会・分科会・公開授業・研究協議会

期　日：令和元年６月 19 日（水）
会　場：高田北城高等学校
　　新井高等学校

（１）総会（10:00～11:00）
ア　開会挨拶
　芸術部会副部長
　川西高等特別支援学校長　小堺 さとみ
イ　当番校長挨拶
　高田北城高等学校長　柳沢　幸也
ウ　議事
・平成 30 年度事業報告、決算報告
・令和元年度役員案
・令和元年度事業報告、予算案
・令和２年度当番校について
　豊栄高等学校に依頼
・その他
　非常勤講師への情報共有について
エ　閉会挨拶
　川西高等特別支援学校長　小堺 さとみ

（２）分科会

（３）公開授業（13:45～14:40）
〈音楽科〉
　高田北城高等学校　上野　敦子
　音楽表現Ａ「器楽アンサンブル」
〈美術科〉
　高田北城高等学校　津幡　潔
　美術表現Ａ「油彩画『私の夢』」
〈書道科〉
　新井高等学校　成田　年樹
　墨美探求β「暮らしに息づく書」

（３）研究協議会（14:40～15:30）

公開授業
〈音楽科〉
高田北城高等学校　上野　敦子　教諭
音楽表現Ａ
「器楽アンサンブル」
１　学年学級　２年Ｉ組　生活文化科　３名
２　使用教科書　Joy of Music
３　使用教材　教科書「アニメ・メドレー」
４　題材の目標
　楽器の基礎練習をふまえて、お互いの音を聞き合って、表現の工夫をしながら演奏する。
５　題材の評価基準・評価方法
※音楽への関心・意欲・態度
・１グループしかないので、演奏を録音して自己評価する。
・積極的に意見を出し合っているか。
※音楽表現の創意工夫
・設定テンポ、装飾音符、強弱など、楽譜からどんな表現が適切かを考える。
※鑑賞の能力
・リコーダーの響き、歌い方を鑑賞し、表現の工夫へつなげる。
６　題材について
　１学期はギターのアンサンブル、リコーダーアンサンブルを通じて、昨年よりもさらに表現の工夫に取り組ませたい。周りの音を聞く余裕がなくて、バランスや強弱などの工夫が見られないため、テン

ポを工夫してみるとか、ブレスの場所を変えてみるとか、主体的にアイデアを出し合わせてみたい。

7　本時

個人での練習を終えて、３人で合わせる練習は、これで３回目となる。期末考査に入る前に、まとめとしての演奏を録音しながら、表現の工夫をさせていきたい。

8　合評会での意見

最初に上野教諭より、「いつもよりモチベーションが高く良かった。曲に対して、表現をしようと積極的になってきた。」とお話がありました。その後、下記の意見が出ました。

・トリルや変え指などにこだわりすぎると、曲に入れない。ピアノを弾いている生徒に安定感があり、曲も前に進んだ。
・少人数授業は大変な面もあるが、じっくりと生徒一人一人に向き合えるという利点もある。曲のイメージを明確にしたほうが良い。
・授業中の生徒の様子から、音楽が好きなんだと伝わるものがあり、心にしみた演奏であった。
・ソプラノリコーダー・アルトリコーダーのバランスを取ったほうが良い。また、タンギング（tu, ru）の工夫をしたらどうか。
・ドレミで歌う、リズムを刻む、テンポ設定を生徒に任せるなどして、生徒自身に興味を持たせ、おもしろいと思わせると、音楽が能動的になる。

〈美術・工芸科〉

高田北城高等学校 津幡　潔 教諭

美術表現Ａ　油彩画『私の夢』

高校の美術で油絵を描くことを通して、生涯にわたって美術に親しむことを目指し、油絵に取り組みやすい工夫がされていた。

生徒は基本的な用具の扱いに慣れ、テーマから発想を広げた思い思いの世界を悩みながらも伸びやかに描いており、油絵の具の持つ特性を理解しながら描写を楽しんでいる様子だった。少人数の選択授業ということもあり、津幡教諭が個々の作品に対して丁寧にアドバイスをすることで、生徒も自分の作品に愛着を持ちながら取り組んでいると感じた。

油絵の具は比較的高価なため、絵の具や筆は共用とし、筆等の手入れがしやすいよう、バケツを加工した大きな筆洗器が用意してあり、汚れ防止に新聞紙で作った簡易エプロンを身につけてから制作に入るなど、“気軽に取り組める”環境が整備されており、生徒も抵抗なく制作を楽しんでいたのが印象的だった。

〈書道科〉

新井高等学校　　成田年樹 教諭

3年次選択『墨美探求β（3単位）』6名

テーマ『暮らしに息づく書』

「作品制作（商品ロゴ）

　コマーシャルカリグラフィーに挑戦！」

総会後、県立新井高等学校に場所を移動して、成田年樹教諭の公開授業が行われた。

当初は午後の授業1時間のみの予定であったが、ご厚意により1つ前の授業も見学できた。

3年生の選択書道Ⅲは、本当に書道が好きな生徒3名を対象にした授業であった。文化祭に出品する作品づくりで、半切の紙に書きたい文字を創作した。先生は、生徒がこうしたいと思う意図に沿うようにアドバイスをしたり筆を薦めたりと、一人ひとりに声掛けをしていた。また、激励や褒めことばを掛けながら指導している様子は大変勉強になった。

次の3年次選択『墨美探求β(3単位)』の授業は『暮らしに息づく書』をテーマに、コマーシャルカリグラフィーに挑戦した。

商品名をキャッチコピーのメインに入れ、商品価値が上がるように自分の意図に基づいて創意工夫して制作していた。

太さ・鋒先の長さ・材質など用意された様々な種類の筆の中から、生徒自らが選んで試筆していることや、言葉のイメージによって文字の形や線質、墨色を工夫していることに大変感心した。

書き終わったら全員で鑑賞会を開き、一番売れそうな作品を選んでいた。

生徒への働きかけが本当に細やかで、生徒もそれに呼応し、先生と生徒の盛り上がりを見せる授業は、ほんの1時間参観しただけだったが素晴らしい内容であった。

教室環境も見事で、生徒の作品を授業成果が見えてくるように書道教室内に貼り巡らせ、そのような点も勉強になった。

２各科研修会

■音楽科研修会

期　日　令和元年10月１日（火）
会　場　新潟市民芸術文化会館
内　容　「りゅーとぴあ施設見学」
　　「バイオリン講習会」
　　研究協議会、連絡
参加者　11名

【研修内容】

○りゅーとぴあの施設見学

りゅーとぴあは、白山公園から信濃川・やすらぎ堤までのオープンスペースの中核に位置。木々に囲まれた会館が、近代建築を柔らげる。３つの専用ホールと７つの空中庭園で構成されている。以下、見学した場所をあげる。

＜コンサートホール＞

交響楽に最も適したホール。音響的にも、視覚的にもステージとの一体感・臨場感を楽しめるアリーナ形式。正面にパイプオルガンを設置、音量感・残響感を・広がり感を満たしている。

＜シアター＞

演劇を初め、さまざまな舞台芸術のためのホール。可動のプロセニアムアーチ、大小の迫り、すっぽんつきの本花道などが舞台を演出。

＜能楽堂＞

桧床の舞台、檜皮葺きの屋根、伝統的な屋内能楽堂。舞台正面鏡板外し、中庭が見えることによって、野外の雰囲気となる。

＜展望ラウンジ・屋上庭園＞

※りゅーとぴあの職員の方が同行して親切丁寧に説明してくださった。本当に充実した時間であった。

○バイオリン講習会

武田圭司先生から、バイオリンの初歩的な奏法を受講した。部位の名称、弓の張り方・持ち方、楽器の構え方、チューニング、ボウイングなどを一通り習った。武田先生の熱心な指導のおかげで、最後は、「カノン」の最初の音が重なる部分をアンサンブルすることができた。

最近は、いろいろな楽器を短期間レンタルし、授業中に器楽領域の幅を広げている学校もある。こうした経緯から、バイオリンのレッスンを設定した。参加された先生方からは、おおむね好評であった。残念なのは、参加者が少なかったことだ。来年は、少しでも参加者を増やせるような魅力的な企画にしたい。

○研究協議会

＜表現の指導について＞

・音楽の実習費を集めていないので、考慮する。
・バイオリンを器楽教材としたが、上達が難しい。

＜今後の音楽研修会について＞

・次の幹事が決まらず苦慮している。皆さんに協力してほしい。

などの意見がでた。

■第32回新潟県美術教育研究大会・下越大会

日　時　８月６日(火)　９：00～16：00
会　場　食育・花育センター
内　容　高校分科会
参加者　７名

○紙面発表

豊栄高等学校　片桐　泰紀　教諭

「平成30年度地域連携授業」

実践報告

○中越高等学校　北村　和則　教諭

「『なりきり自画像』と『ご当地ヒーロー・ご当地ゆるキャラ大集合』の指導」分科会において、実践報告と併せて参加者が持ち寄ったシラバス、授業案の紹介、情報交換を行った。

■美術・工芸科研修会

日　時　8月20日(火)10：00～17：00
会　場　ギャラリーみつけ
内　容
「銀七宝（木の葉のブローチを中心に）」
参加者　10名
講　師　枝村　佐門　氏

【研修内容】
日程の確認
①七宝焼きについて
②銀七宝について
③釉薬のとぎ方について
④デザインの確定
⑤作品制作
⑥作品鑑賞会

今回の講習では教材でよく扱われる銅板による七宝焼きではなく、若干高価ではあるが非常に魅力的な銀板による作品制作を行った。
〈脱脂〉素材についた脂を除去する際にアルカリで中和する必要があるものの、銀の場合はから焼き（脂焼き）で脱脂が済んでしまう。
〈裏引き〉金属と釉薬の収縮率の違いから素材の裏表を釉薬でサンドする必要性が生じる。銀板による七宝焼きでは裏面の絵の具の発色が素晴らしく、そのままでも魅力的な状態となる。またしっかりと裏引きされた銀の七宝焼きは透明釉薬の複数回の焼き重ねが可能であり、それにより深い色味を出すことができる。
〈立体感〉今回は会場の都合で彫金的な「叩く」作業はできなかったが、用具を用いて葉の膨らみを表現し、葉脈の線的なへこみを施すことができる。

そのほかに枝村先生が使用している用具、釉薬のとぎ方、様々な技法との相性など、長い製作歴、深い経験の中から出てくるお話しには大変に魅力的な事柄が多く、「時間をかけてモノをつくる」という大切な創造の核を体験させていただいた。

■公開研究授業

日　時　10月31日(木)9：50～14：15
会　場　豊栄高等学校
内　容　新教育課程研究指定事業
　　研究授業・協議会・講演会
講　師　文科省初等中等教育局
　　視学官　東良　雅人　氏
参加者　7名
研究授業
　豊栄高等学校 片桐　泰紀 教諭
　　地域連携事業
　　美術Ⅱ『コンサートの広報デザイン』
　　美術Ⅲ『地域イベントの広報デザイン』

地域社会との連携事業を通して主体的・協働的に学習に取り組むことにより、学びに向かう力や人間性を磨き、自己有用感や思考力、判断力、表現力等を育成し、高める題材の開発と指導方法の研究として研究授業が行われた。

豊栄高校は芸術コースを有し、メディアデザイン室にはパソコンやプロジェクター、大判プリンターなどの備品が揃っており、２、３年生の選択で多くの芸術単位の取得が可能である。素直な生徒たちであるが、主体的に制作活動に取り組むには支援が必要な場面もあるという。地域から請け負った課題に対して、グループワークを含む計画的な制作を通し成果を発表するまできめ細かく指導している様子を、掲示された成果物や生徒の取り組みから見ることができた。このような設備を誰もが同じように活用、指導できるかが、今後の課題でもある。

研究協議後に、文科省東良調査官より、新教育課程のポイントについて講演があった。カリキュラムの目標、生徒に身につけさせたい資質・能力が何かを明確にし、社会と深く関わりながら社会に開かれた教育課程の実現を目指すことが必要である。美術・工芸が得意な生徒、好きな生徒だけでなく、全ての生徒に生きていく上で必要な力を「美術“で”教える」ことが求められている。

英語部会

1　３つのプロジェクト活動

３つのプロジェクト活動について、春に英語部会会員全員に呼びかけ、その中から希望者が登録する。今年度は約 80 名が登録した。年間を通して、自主的に協働的に研修できる場を持ち、授業改善につなげている。３つのプロジェクトの内容について以下で説明する。

①プロジェクト S (Smile)

参加者の話し合いを通し、日頃の授業実践や指導の悩みなどを共有し、次への改善策を検討する。全メンバーによる大研修会を学期に１回、３人程度のグループによる小研修会を月１回程度行う。今年度は７グループが、新潟県内さまざまな地域において定期的に小研修会を実施した。

②プロジェクト O (Open Class)

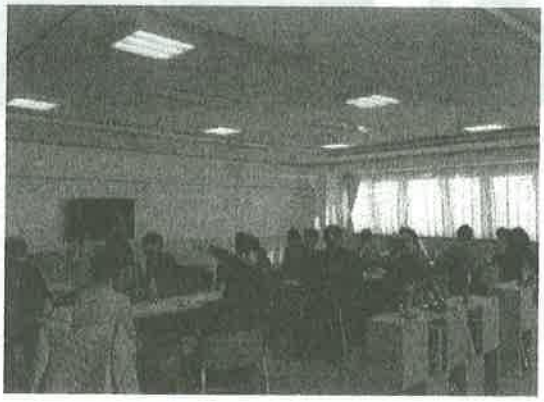
全県研究協議会での公開授業を行う先生の授業や、他のメンバーの授業について、活動を体験したり話し合ったりすることを通し、参加者自身の授業の改善へとつなげている。

③プロジェクト E (Evaluation)

評価について調査・研究を行ったり、定期考査やパフォーマンス評価・テストについて研究を行い、自校での授業改善につなげる。また大学入試問題についても研究を行っている。

＊今年度に行われた主なプロジェクト活動

・７月１５日（県立新潟中央高校にて）
　３プロジェクト合同研修会
・８月１９日（アオーレ長岡にて）
　夏季研修会ワークショップ担当
・９月２３日（県立新潟中央高校にて）
　プロジェクト O 研修会
・９月２３日（まちなかキャンパス長岡にて）
　プロジェクト E 研修会
・１０月２４日（県立新潟中央高校にて）
　全県研究協議会　分科会担当
・１２月２９日（サクラーレ福住にて）
　３プロジェクト合同研修会
・３月９日（アオーレ長岡にて）（中止）
　講師を招いての特別研修会
・以上の他に、小グループによる研修会が行われた。



（12 月 29 日　サクラーレ福住での
プロジェクト研修会の様子）

2　夏季研修会

期　　日　８月１９日（月）
場　　所　アオーレ長岡
参 加 者　４０名

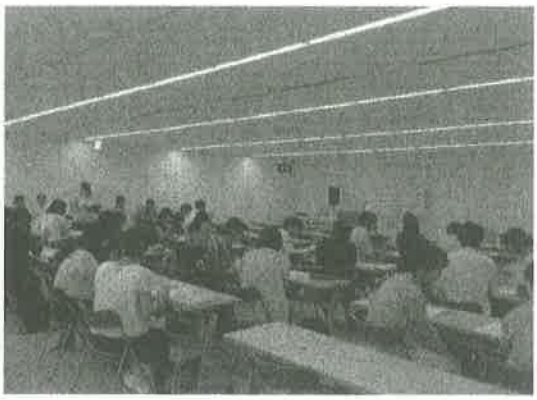
内　　容

（１）プロジェクト E に関連した実践発表
「ディベートで身につく力」
廣澤　卓郎（県立新発田高等学校）

（２）ワークショップ
「夢中になるから英語が話せる」
小口 真澄 先生（英語芸術学校

MARBLES 主宰）

（３）プロジェクトＳによるワークショップ
「本日の研修会のまとめ」
菅家　茜（県立上越総合技術高校）



（8 月 19 日　アオーレ長岡での
夏季研修会ワークショップの様子）

３　全県研究協議会

期　　日　１０月２４日（木）
場　　所　県立新潟中央高等学校
参 加 者　１１５名

内　　容
（１）公開授業
中村 望（１学年）
仲川 裕子（１学年）
高橋 有香（２学年）

（２）講演会
「英語学習ポートフォリオとプロジェクト型学習」
清田 洋一 先生（明星大学教授）

（３）分科会
①プロジェクトＯ
公開授業の振り返りから学ぶ
進行：三本 朗子（県立新潟商業高校）
記録：根本 栄一（県立小千谷西高校）
全体会報告：小林 真留美
（県立津南中等教育高校）

②プロジェクトＥ
清田洋一先生の講演会の内容を受けてのワークショップ
進行：長谷川 誠（県立加茂農林高校）
記録：村中 由美子（県立新潟南高校）
全体会報告：尾﨑 由吏（県立加茂高校）

③プロジェクトＳ
スピーキング活動を体験し、日頃の実践を振り返る
実践発表者：菅家 茜
（県立上越総合技術高校）
進行補助：荒木 美恵子（県立新潟高校）
記録：金子 堅太郎（県立柏崎高校）
全体会報告：石野 比羽子
（県立国際情報高校）

（10 月 24 日　県立新潟中央高校での
全県研究協議会開会式の様子）

４　高校生英語スピーチコンテスト

［予選］
期　　日　１０月２０日（日）

場　　所
（上越・中越）柏崎市市民プラザ
（佐渡・下越）県立生涯学習推進センター
参　加　者　７７名

［本選］
期　　日　１１月２日（土）
場　　所　県立生涯学習推進センター
参　加　者　２０名

５　高校生英語ディベート大会

期　　日　１０月２７日（日）
場　　所　県立高志中等教育学校
参　加　者　２１チーム

６　刊行物

「高教研英語部会誌　第６４号」の刊行
（内容）
・夏季研修会報告
・全県研究協議会報告
・スピーチコンテスト報告
・ディベート大会報告
・各プロジェクト活動報告
・その他報告

（文責　荒木美恵子）

農業部会

令和元年度新潟県高等学校
農業教育研究大会報告

当番校　加茂農林高等学校

目　的

本県の農業関係高等学校の教職員が、農業教育の当面する諸問題について研究協議し、農業教職員の資質の向上と併せて農業教育の振興発展に資する。

大会スローガン

産業界で必要とされる資質・能力を見据えた農業教育を推進しよう

期　日　　令和元年８月21日（水）
会　場　　じょいあす新潟会館
日程及び次第

10：00 ～ 10：30 受付
10：30 ～ 10：50 開会式
11：00 ～ 11：40 農場協会総会
11：40 ～ 12：30 昼食休憩
12：30 ～ 14：10 分科会
14：25 ～ 14：45 農業に関する施策報告
14：45 ～ 15：15 全体会
15：30 ～ 16：50 講演会
16：50 ～ 17：00 閉会式

講演会

演題「産地直食から学んでもの」

講師　有限会社高儀農場
取締役会長 高橋　治儀　様

節水トマトの販売戦略を立て、本格販売したものの、フルーツトマトが市場に認知してもらえず、苦戦を強いられた時期が長く続いた。そんな中、長野県の「スーパーつるや」さんのバイザーとの出会いが転機となった。

スーパーつるやに本格出荷。このころ自宅始め、口コミで販路拡大することができ、法人化による規模拡大構想を作り上げた。平成11年、観光イチゴ園開園。平成12年２月農業の６次産業化の先駆けとして、産地直食のイタリアンレストラン「ラ・トラットリア エストルト」を開業した。しかし、同年５月に行政からレストラン営業が農地法上の違法性を指摘され、行政・農協といろいろ協議を重ね休業することとなった。平成15年、稲作部門に於いて、新潟県から【新潟県特別栽培農産物認証制度】の認定を受け、米の減農薬・減化学肥料栽培（通称：減・減栽培米）に取り組む。平成16年施設園芸部門に於いて、新潟県から【新潟県持続性の高い農業生産方式の導入計画の認証者】（通称：エコファーマー）の認定を受ける。平成28年５月、レストラン営業を再開。平成30年３月、６次産業化アワードで食料産業局長賞を受賞。

高橋会長より、現在に至るまでの自身の取組を講演頂きました。

分科会

第一分科会

「経営感覚の醸成を図るための学習指導について」

指導助言　高田農業高等学校
校長　竹内　正宏

発　　表　長岡農業高等学校
教諭　吉山　こず恵
司　　会　高田農業高等学校
教諭　小黒　一宣
記　　録　佐渡総合高等学校
教諭　池亀　元喜

第二分科会
「地域連携活動を活かした農業教育の取組について」
指導助言　新発田農業高等学校
校長　佐々木　雅伸
発　　表　高田農業高等学校
教諭　岡田　雅樹
司　　会　新発田農業高等学校
教諭　井ノ口　康史
記　　録　柏崎総合高等学校
教諭　樺澤　直博

第三分科会
「生徒募集・進路指導を見据えた活力ある学校づくりと情報発信について」
指導助言　長岡農業高等学校
校長　中村　満夫
発　　表　新発田農業高等学校
教諭　野村　信夫
司　　会　長岡農業高等学校
教諭　中野　忠雄
記　　録　巻総合高等学校
教諭　梅川　雅弘

農業教育課題研究会　報告

第29回全国産業教育フェア新潟大会
第18回全国高校生ﾌﾗﾜｰｱﾚﾝｼﾞﾒﾝﾄｺﾝﾃｽﾄ
当番校　新発田農業高等学校

1　日　時　令和元年10月26日(土)･27日(日)
2　会　場　新潟コンベンションセンター
朱鷺メッセ
3　趣　旨
専門高校等で学ぶ全国の高校生が、フラワーデザインに関する知識と技能を活用し、表現力や創造性・芸術性を互いに高め合うとともに、新たな時代の創生に向け、産業界を担うために必要な資質を育むことを目的とする。
4　競技内容
全国の専門高校等で学ぶ高校生が、指定された花材・資材・花器を使用し、制限時間内に与えられたテーマのもとに作品を制作し、フラワーデザインの技術や芸術性を競う。
5　審査員
文部科学省初等中等教育局参事官（高等学校担当）付
産業教育振興室教科調査官
鈴木　憲治　様
Candy by kandy
代表　江縫　和美　様
公益社団法人日本ﾌﾗﾜｰﾃﾞｻﾞｲﾅｰ協会
コンテスト審査員・名誉本部講師
丸山　春江　様
一般社団法人ＪＦＴＤ
新潟支部長　仁木　隆雄　様
公益財団法人日本いけばな芸術協会会員
草月流一級師範理事　髙岡　秋桂　様
6　デモンストレーター
Musubi屋店主
花育アドバイザー　石山　　浩　様
7　日　程
【10月26日（土）】
受　　付　　9：30～ 9：55
開 会 式　　10：00～10：20

競技説明	10：25～10：50
移　　動	10：50～11：00
競技準備	11：00～11：30
競　　技	11：30～12：30
審査・昼食・休憩	12：30～13：20
デモンストレーション	13：20～14：20
閉会式・表彰	14：50～15：20
個別指導	15：30～16：00

【10月27日（日）】作品展示

9：30～13：30

8　参加校数58校・参加人数65人

9　テーマ「忘れたくない 想いを つむぐ」

10　支給花材10品目・支給資材12品目

11　コンテスト結果

金　　賞　岡山県立勝間田高等学校
福本　麻絢

銀　　賞　兵庫県立有馬高等学校
田中　亜弥

熊本県立北稜高等学校
浦嶋　ゆま

銅　　賞　埼玉県立川越総合高等学校
野村　侑奈

広島県立西条農業高等学校
山中　菜々子

審査員奨励賞

愛知県立佐屋高等学校
石井　日香留

神奈川県立平塚農業高等学校
大井　綾乃

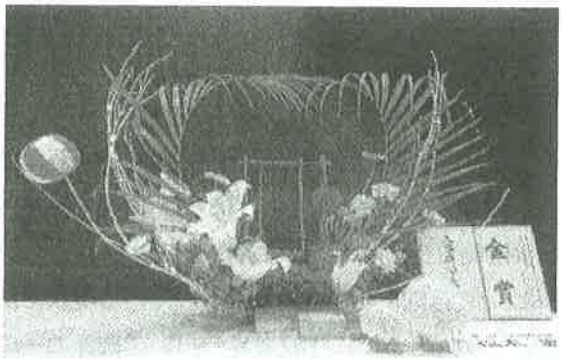
新潟県立新発田農業高等学校
赤澤　美月

三重県立明野高等学校
廣岡　咲良

愛媛県立大洲農業高等学校
木下　渚

13　参加者・観覧者の声（抜粋）

・支給資材などに工夫が見られ、新潟らしさが強く出たよい大会であった。



・運営を担当した生徒の対応がとても丁寧で、気持ちよく参加することができた。

・新潟県産の花材をアピールするために、開花調節が非常に困難なユリを、良い状態で揃えて開花させた担当校の心意気に感動した。また、そのユリを1本ずつ大切に選手に手渡すという配付時の演出もよかった。

14　おわりに

この夏、日本各地で異常気象等による災害が多く発生した中、全国各地から多くの選手、先生方に参集いただき「第18回全国高校生フラワーアレンジメントコンテスト」を無事に終了することができました。数年間にわたる準備期間があったにもかかわらず、準備が不十分な点も多々ありましたが、コンテスト全体としては、参加者と観覧者ともに楽しんでいただけるものができたのではないかと考えております。審査員、デモンストレーターの先生方、および資材・花材を提供していただいた方々をはじめ、本コンテストに関係された全ての方に、改めて感謝を申し上げます。

工業部会

土木・建築研究会・講習会

【第１日目】

期　日　令和元年10月３日（木）

会　場　新潟工業高校北斗会館

参加者　22名

【研究会】

１　鹿島建設協力会社との意見交換会

現在、管理系の求人に恵まれており、それに伴う入職も多い現状にある。しかし、技能系となると学校側も企業側も入職に関するデータが少ない。また、企業側は人材確保に逼迫している現状にあるという。そこで、建設業界の担い手確保の一環として意見交換会を実施した。参加企業は、鹿島建設６名、専門工事会社９社９名となった。

（１）全体協議会

予め、各校にアンケートを実施し、集約した結果に基づき話し合いを行った。

テーマ１　生徒・保護者・学校が企業を選ぶ際の基準について

テーマ２　生徒・保護者・学校が持っている建設業のイメージとは。また、建設業のイメージ向上のためにどのような対策が有効だと思うか。

（２）グループディスカッション

土木・建築別に４班に分け、以下のテーマについて意見を交換した。

テーマ１　建設業の中でも人気が集まる職種、会社はどのようなものか。

テーマ２　現場見学会や作業体験を行うことは、建設業のイメージ・魅力につながると思うか。

テーマ３　生徒や保護者、学校は求人票のどこを見るのか。魅力的な求人票とは。

テーマ４　入職後の新入社員の扱いで気を付ける点や、企業側が努力すべき点は。

学校の存在する地域や、生徒の入職希望も多様化する現状である。今後、企業連携は、より不可欠なものとなるため有意義な会議となった。

２　土木・建築部会　全体協議会

（１）今後の土木・建築研究会の在り方

（２）建設人(生徒) 確保のための方策について

【第２日目】

期　日　令和元年10月４日（金）

会　場　新潟工業高校北斗会館

参加者　20名

【講習会】

（１）Holostruction（ホロストラクション）

～３次元データの活用による生産性向上技術

講師　小柳建設株式会社　イノベーション推進部

和田　博司　様、　吉田　康　様　他

複合実現技術の活用で、現実の世界に３次元ホログラフィックを重ねて投影する。専用のゴーグルを着用することで、建設データの可視化や安全管理のシミュレーション、複数人や遠隔地とで視界と音声を共有した打ち合わせなどが可能となる。新技術を体験する貴重な時間となった。

【研究会】

（２）土木・建築部会　分科会

○土木　ものコン測量競技全国大会　関連、進路状況

○建築　現３年生の２級建築士学科試験 関連、東日本建築研究会新潟県理事 関連、進路状況

【講習会】

会　場　ICT コマツ IoT センター（江南区曙町）

参加者　16名

（３）スマートコンストラクション　～建設現場を劇的に変える。これまでにない発想とそれを支える技術～

ドローンによる測量から、３次元の地盤データの取得と ICT 技術を活用した施工の提案。測量・設計から施工管理に至る全プロセスの情報化の基準となる「i-construction」の一例を学んだ。

（記・県立新潟工業高等学校

土木科　渡邉　太一　、建築科　伊藤　政人）

機械・電子機械講演会・研究会・見学会

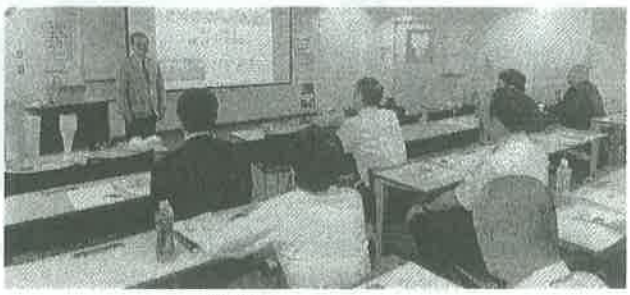
期　日　令和元年10月10日（木）
会　場　新潟医療福祉大学（講演会・研究会）
　　株式会社　田村義肢製作所（見学会）
参加者　13名

【講演会・研究会】

講師：新潟医療福祉大学リハビリテーション学部
義肢装具自立支援学科学科長
　　東江由紀夫　様

演題：義肢装具士の職業

講演では、義肢装具士の業務内容および義肢や装具を付けることで患者様にどのようなことができるようになるのか、についてお話いただいた。まず、義肢装具士の役割として、「義肢装具士の業務（役割）は、義肢装具等をたんに製作することではなく、これらを生体（患者、障がい者）に適合させることにある。」と言われていた。
そして、装具による治療の軽減の例として、骨折により歩行が困難な方が、装具を装着することで歩けるようになり、入院せずに治療ができることをあげられていた。その際、義肢装具士は「装置と患者様とのフィッティングを大切にしている」ことや、「義肢により、今よりできることを増やすことで、患者様の自尊心を守ることになる。」ことなど、心のケアにも心配りしながら業務にあたられていることを話しておられた。


講演会の様子

講演会後、研究会として施設見学、義肢の体験をさせていただいた。なお、こちらの施設は国際義肢装具協会（本部ベルギー）より義肢装具士の養成機関として最高位の認証を受けている。

今回の講演会・研究会は、限られた時間ではあったが内容の濃い有意義なとものとなった。

足型から靴のソールを作る実習

義足での歩行体験体験

【見学会】

今回は、田村義肢製作所様で実際に義肢や装具を製作しているところを見学させていただいた。こちらでは、靴、義足、腰に巻く装具など多種多用の製品を製作していた。多くは、義肢装具士の方が医療機関に出向いて、患者様の型をとり義肢装具を製作しているとのことであった。

製作には、３Ｄスキャナーで型を取るなど、機械を用いる部分もあったが、多くは手作業であった。そのため、思った以上に多くの方が作業している印象を受けた。最終的には、使われる方の体型に合ったものになるように手で仕上げていた。

今回、義肢や装具を作る過程を見せていただき、従業員の皆様が、使われる方の気持になって作られていることが伝わってきた。我々の工業分野でも見習うべきことが多い見学会となった。

装具を製作している様子

（記・県立新津工業高等学校
　　工業科　小熊　幸成）

電気・電子見学会・講習会

【見学会】

期　日　令和元年　11月29日（金）

会　場　新潟職業能力開発短期大学校

参加者　19名

新発田市にある新潟職業能力開発短期大学校は厚生労働省が所管する学校です。専門課程2年間で、基礎的な専門知識から生産現場で即応できる技術・技能までを習得できるカリキュラムとなっています。

午前中に短期大学校の特色や各学科紹介や学生達が取り組んでいるコンテストや資格等をパワーポイントで紹介されました。その後、各科の現場に行き、実際に取り組んでいる実習内容や学生達が製作した課題研究などを丁寧に演示して頂きました。生産技術科では、マシニングセンターで精密に金属加工している実習を見せて頂いて、加工したサンプルペンダントなどを記念に頂きました。また、実際に人が乗れるように製作されたミニSL機関車などや高価な外国製の3Dプリンターなども見せて頂きました。

電気エネルギー制御科・電子情報技術科では、空気圧制御を利用したオートメーション組立システムや RaspberryPi を利用した学生達が製作した課題研究作品などを見せて頂きました。どれもレベルが高く完成度も高いので興味深く感心させられました。

空気圧制御システムの説明を受けている様子

【講習会】

午後からは今流行の「python」というプログラミング言語の講習会を宇野　達也先生から指導して頂きました。pythonはライブラリが豊富であり、インタープリター言語であるため、取り組みやすく、画像処理やロボット制御、Iot 制御などにも利用されています。企業や大学、研究所などでも取り入れられていて、その技術者の需要も多いようです。限りある時間なので、最初は実際に使われているプログラミングを紹介して頂き、そのサンプルプログラムを各先生方から実行して経験して貰う事から始まりました。画像処理プログラムでは多くのいろいろな事ができることを経験して関心や興味が高まりました。

その後、pythonの基本プログラムを指導して頂きました。ただ講習時間が短いため、ゆっくりと実習ができないので、すべてを習得することは難しかったです。最後に示された動作プログラム等を持ち帰ることができましたので、学校等でゆっくりと復習できました。

今回の見学会・講習会に天候も雪がちらつく中、遠方より多くの先生方からご参加頂き有り難うございました。大変感謝申し上げます。

また、新潟職業能力開発短期大学校様からはご多用の中、ご丁寧なきめ細かいご指導ご協力頂きまして感謝申し上げます。

pythonの講習を受けている様子

（記・県立新発田南高等学校

電子情報工学科　齋藤　潔）

工業化学研究会・見学会

期　日　令和元年11月29日（金）

【見学会】

会　場　株式会社バイオマスレジン南魚沼

参加者　８名

植物由来のプラスチック（バイオマスプラスチック）の原料を製造販売するバイオマスレジン南魚沼（南魚沼市）は、2017年11月に設立され、今回、脱プラスチックと環境問題についての説明をお聞きし、実際の製造工程と施設設備を見学した。米以外の植物原料や、コスト、今後の全国展開などについても知ることができ、とても将来性のある原料だと実感できた。

説明内容

・毎年800万トン以上のプラスチックごみが海へ流出し、マイクロプラスチックが大きな問題となっている。プラスチックごみと地球温暖化との関連性も指摘され、脱プラスチックはＳＤＧｓ順守の重要な課題である。

・プラスチックごみの削減が世界的な課題となる中、環境に配慮する企業や自治体からバイオマスプラスチックの引き合いが急増しており、米を主原料とする原料の生産を拡大している。レジ袋や菓子用袋、梱包・包装資材などを作る機械を導入、最終製品を内製化する体制を整える予定で、製造や研究に当たるスタッフの増員を検討している。

見学会の様子

見学会でご対応いただいたバイオマスレジン南魚沼の皆様に感謝申し上げます。

見学会の様子

【研究会】

会　場　アトリウム長岡

参加者　参加者11名

協議題

1　新教育課程について

2　令和３年度ものづくりコンテスト全国大会化学分析部門について

・令和元年度ものづくりコンテスト全国大会化学分析部門報告

・実施体制について

3　工業化学系事務局、各種大会等輪番について

4　その他

２年後、ものづくりコンテスト全国大会化学分析部門が新潟県で開催することになり、今後の実施体制など、時間をかけて協議した。

研究会の様子

（記・県立長岡工業高等学校

物質工学科　鶴巻勝弘）

ロボット技術研究協議会及び研究発表会

期　日　令和２年１月24日（金）
会　場　新潟県立長岡工業高等学校
参加者　１０７名（生徒８１名　教員２６名）

今年度は、例年の会場である新潟工科大学と日程が合わず、長岡工業高校を会場としての実施となりました。内容も例年は講演会、研究発表、協議会、大学施設見学を行っていましたが、今年度は研究発表と分科会に分かれての協議のみで実施しました。

１　研究発表

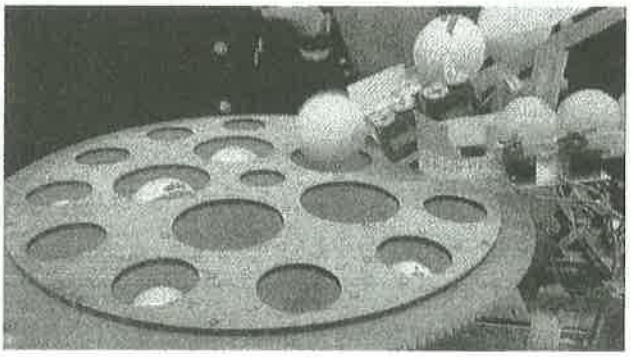
研究発表では、ロボット部門は、今年度、新潟県で行われた第２７回全国高等学校ロボット競技大会でベスト８にはいった新潟工業高校の取り組みについて発表がされました。テニスボール取り込み用の部品の先端を丸め、指定の場所に配置しやすくした工夫や卓球ボールを１個ずつ取り込む機構を一気に全部取り込む機構に変更したことなど、ロボットの細部にわたり、様々な工夫が施されており、多くの試行錯誤と努力の跡がうかがえ知れる内容の発表でした。

また、マイコンカーラリー部門からは同じく新潟工業高校が発表しました。こちらもマイコンカーの重心を低くするため、バッテリーを低い位置に配置したり、壊れやすい部品である先読みセンサーをなくし、プログラムで対応したり、駆動輪への荷重の加え方を工夫したりと多くの研究の成果が注ぎ込まれた取り組みが説明されました。

２　分科会

分科会はロボット、マイコンカーラリー、ソーラーラジコンとサッカーロボットの各部門に分かれて行われました。ロボット部門では生徒約 70 名が参加し、新潟工業高校と長岡工業高校が全国高等学校ロボット競技大会新潟県大会（以下全国大会）に出場したロボットを持ち込み、それぞれのロボット製作の技術を説明しました。また、新潟工業高校は、全国大会で優勝を果たした「福岡県立八女工業高校」のロボットの機構を製作し、実演しました（下写真）。

ロボット部門での説明の様子



自動でボールを仕分けする機構

今年の競技は、新潟県が全国に誇る「金銀山」「朱鷺」「長岡大花火大会」をモチーフにして行われ、リモコン型ロボットは、所定の場所に置かれている「ゴルフボール」、「テニスボール」「ピンポン玉」を取り込み、長岡大花火をイメージした台「三尺玉」に設置するというルールです。写真は自動でボールを仕分け、設置する機構である。優勝を果たしたロボットの機構を製作し、他校の生徒と交流を深めることで、ロボット部門の分科会は有意義なものとなりました。

他の分科会でも、各校が持ち寄ったロボットやマシンについて説明がされ、その内容について質疑応答を行うなど、熱心な討議が行われ、充実した分科会となりました。

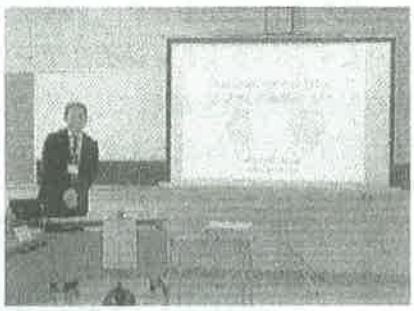
（記・県立長岡工業高等学校
機械工学科　川口　利夫）

商業部会

1　期　日　令和元年 11 月 15 日(金)
2　場　所　新潟県立糸魚川白嶺高等学校
　　合名会社　渡辺酒造店
3　主　催　新潟県高等学校教育研究会
4　参加校　11 校（22 名）
5　日　程

受付	10:15～10:30
開会	10:30～10:45
講演	10:45～11:30
研究協議	11:30～11:45
講演・企業見学	13:30～15:00
指導講評	15:30～16:00
閉会	16:00～16:15

6　講演Ⅰ
演題　「糸魚川市の観光の取り組みと
　　大学等との連携について」
講師　糸魚川市産業部商工観光課
　　交流観光係係長　中村　真義　様



（1）　糸魚川市の観光の状況

糸魚川市では世界ジオパークの認定が 10 年を迎えた。観光素材の中心として、各ジオパークの紹介や関連施設のリニューアルなど積極的に行ってきた。

また、小中学生の「糸魚川ジオパーク検定」受験などをとおして、ジオパークが地域を理解する学習にも一役買っている。

（2）　大学との連携

平成 30 年のＪＲ西日本主催「新潟カレッジ」で、関西地区の大学生がＪＲを利用した観光素材の磨き上げプランを提案するという事業が行われた。

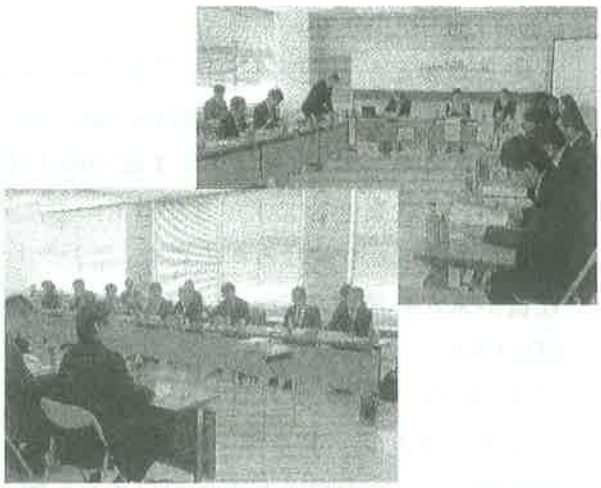
このとき、和歌山大学と新潟経営大学の学生が糸魚川で現地体験を行った縁で、令和元年「新潟経営大学と糸魚川市の観光連携に関する協定」が結ばれた。

協定により期待される効果は、大学生の目線による糸魚川ジオパークの観光素材の磨き上げと、誘客に向けた新しい提案、ワークショップを通じた市内高校生等への波及、体験を通じた大学生の教育機会の創出と人材育成である。

7　研究協議

令和元年５月に発表された「教育再生実行会議　第 11 次提言　技術の進展に応じた教育の革新、新時代に対応した高等学校改革」で、市町村、産業界、大学等と協働した地域課題の解決等を通じた学びの実現が提言され、今後、制度化に向け検討される。

このことをふまえ、地域等との連携について各校での取り組み、新教育課程編成の進捗状況等の情報交換を行った。



8　講演Ⅱ・企業見学

演題　「米づくりから酒づくりまで一貫生産」

講師　合名会社　渡辺酒造店

代表社員　渡辺　吉樹　様

（1）　渡辺酒造店について

糸魚川駅から車で約 20 分の根知谷に蔵を構える明治元年創業の酒造で、主力ブランドは「根知男山」。

現代表が代表社員になった平成 13 年、長年勤めた杜氏が引退し、地元の正社員のみによる週休制・通勤制による酒造体制が始まる。

平成 15 年、自社栽培による酒米生産が開始され、現在は自社栽培比率を 94%まで増やし、契約農家 1 軒の酒米と合わせ、全量根知谷産米を使った酒造りを行っている。

平成 22 年、ロンドンで行われたワインの世界最大コンペの日本酒部門で「Nechi 2008」がチャンピオンを受賞する。

根知谷に自生するツツジから天然酵母を作り、令和元年、自社栽培米と組み合わせた製品を販売する。

（2）　なぜ米づくりから

地元の農家から酒米を作ってもらっていたが、年々高齢化が進み、後継者がいないということが見えて、米の自社栽培を 1 枚の田んぼから始めた。企業としてずっとやっていくため、安定して酒造りを続けるためには、自分たちの社員が米から酒までを一貫生産するのがいちばんいい。

（3）　ドメーヌ・スタイル

ドメーヌとはブドウ畑とワインの醸造所を両方持って、ブドウの生産からワインの醸造、瓶詰めまで一貫して行うことで、これを日本酒でやっているという意味でドメーヌ・スタイルと呼んでいる。

現在、日本において、ドメーヌ・スタイルで酒造りを行っているのは数社しかなく、認知度は低い。

ワインは基本的にどこの土地で作られたかが重要で、日本酒も根知谷の米と水で作ってみたら、人が真似できないものが作れた。

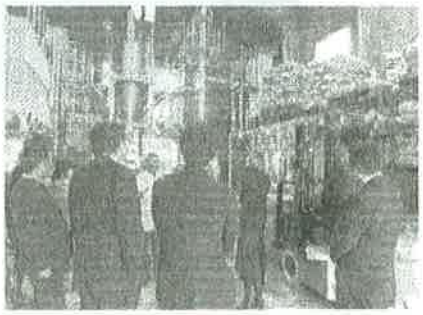
ワインの世界では、コンペティション→エデュケーション→セールというしくみが一般的で、コンペでワインを知ってもらい、ワイン教室でワインを売る人をつくり、ワインを売るという流れがある。

根知谷の木と石と土を使って、4 年がかりで「豊穣蔵」を建てた。そこに直売所を作って、お客さんに見てもらい情報提供をする。2 階の研修室でプレゼンテーションを行うことで、さらにうちの酒を理解してもらいたい。

（4）　リアルから生まれるオリジナルな価値を

バーチャルや数字という「幻想」の中で価値を作ろうとしている時代だが、ここに来てもらえれば、全部ここでやっていますという「リアリティ」がある。しかも、ここの水と米だけで作っていますという「オリジナリティ」がある。

自給的な生産活動を続けて、「そういうのがいいね」と言ってもらえるものづくりを続けていきたい。



水 産 部 会

1　水産教育研究会

（1）期　日

令和元年 12 月 24 日(火)

（2）会　場

新潟県立海洋高等学校　大会議室

（3）指導・助言者

新潟県教育庁高等学校教育課
　指導主事　石田　清彦　様
特定非営利活動法人　みらいず works
　代表理事　小見　まいこ　様

（4）日　程

受付	13:00~13:20
開会式	13:20~13:30
ミニレクチャー	13:30~15:00
協議グループワーク	15:00~16:00
閉会式	16:00~16:20

（5）経　緯

地方都市において少子高齢化や人口流出、各種産業での担い手不足等が大きな課題となっている。本県においても同様な課題を抱える自治体が多く、地域の衰退が懸念されている。高等学校においては、受験生の総数が減少し、統合や廃校となる学校が増えている。

本校を含む水産・海洋高校のほとんどは地方都市に所在しており、少子高齢化等の影響を強く受け、入学を志望する生徒も減少傾向にある。そのような状況の中、本校では県外や県内遠隔地での出張学校説明会を開催するなど、広報活動の充実を図ってきた。また、同窓会が運営する寮や、地域の下宿施設等、遠隔地の生徒を受け入れる環境を自治体等と連携して整えてきた。その結果、本校に在学する約 100 名が遠隔地より入学している。しかし、近年の志願状況は定員を満たしているものの、遠隔地の志願者が受験しなかった場合、確実に定員割れが起こる状況にある。今後は関係各所と一層連携して、遠隔地の生徒を受け入れられるような取り組みをするとともに、本校の魅力を確立し、発信していく必要があると考えられる。

そこで、昨年度は島根県が実施している「しまね留学説明会」を視察・報告し、「志願倍率 1.0 倍以上を維持するか」というテーマでグループ協議を行った。各グループで活発な協議となり、「広報活動について」、「授業・実習の充実について」、「職員の意識改善」、「寮などの施設設備について」など、多くの提案がされ、課題の再認識もされた。

これを受け、本年は「授業・実習の充実について」をテーマに本校のこれからの取り組みを考えた。

本校では地域と連携した、取り組みを行っている。また、次期学習指導要領においても、地域との連携が必要であるとされている。「Society 5.0」では求められる人物像として「異文化をつなげる力」「新たなものにチャレンジする力」「課題解決をするエンジニアリングデザイン的発想」「真理や美を追求するサイエンスアート的発想」「多くの人を引き付けるスキル・リーダーシップ」などが挙げられている。合わせて「他者を思いやり尊重し持続可能な社会を作る倫理観価値観」も必要であるとされている。これらの資質能力を生徒に身につけさせるためには、学校の教育活動だけでは不十分で、効果的に育成するためにも外部連携が必要である。そのため、今一度本校でできる外部連携活動について考えた。

（６）研究会概要

特定非営利活動法人みらいず works 代表理事小見まいこ様を講師として招いた。

レクチャー１　社会と教育の変化

日本の人口は 2004 年の 1 億 2784 万人をピークに減少を続け、2100 年には 4771 万人になると推定されている。また、高齢化率も 2004 年の 19.6%から上昇し続け、2100 年には 40.6%になると推定されていて、誰も経験したことがない超少子高齢化社会を迎えようとしている。その変化に伴い、現在存在しない新たな職業が生まれること、現在の仕事の自動化されること、労働時間が短縮されることが予想されている。それに加えて、自然環境にも変化が生じ、これまでの予想や想定を上回る自然災害が多発するようになった。

一方で、経済発展と社会的課題の解決を両立する新たな社会のイメージ「Society 5.0」が示されている。「Society 5.0」の社会像は、AI 技術の発達が進み、定型的業務や数値的に表現可能な業務は、AI 技術に代替され、産業や働き方に変化が生じる。そのため、「Society 5.0」では、インターネットの普及や知識の伝播速度、知識の価値の変化速度が変わるだけでなく、学びで得られる資産や学習時期、求められる学習スタイルが変わる。一斉一律授業の学校は、個人の進度や能力、関心に応じた学びの場となる。また、同一学年集団の学習は、学習到達度や学習課題に応じた異年齢・異学年集団での協働学習が拡大する。さらに、教室での学習は、大学や研究機関なども活用した多様な学習プログラムとなる。

学習指導要領においても、「何を学ぶか」に加えて、「どのように学ぶか」「何ができるようになるか」といった視点で改訂の方向性を示していて、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すようになっている。「社会に開かれた教育課程」の実現には、地域連携は重要な要素であり、これにより地域活性化も期待できる。内閣府も高校生を核とした地方創生を担う人材育成を重要と考えている。

新潟県の課題に目を向けると、人口は 1998 年から減少を続けている。特に 15～24 歳の若年層の転出率が高く、転出率全体の 8 割を占める。

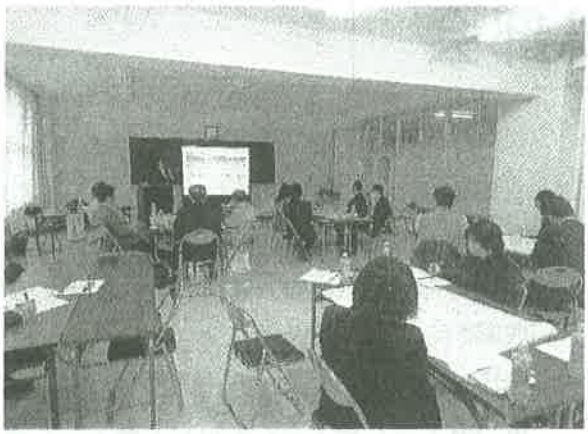
このような課題を解決するため、新学習指導要領を踏まえ、「Society 5.0」を地域から支える人材の育成に向けた教育改革を推進するため、文部科学省では、地域との協働による高等学校教育改革推進事業を開始した。同事業では、地域課題の解決を目的とした取り組みに、地域産業等と連携してコンソーシアムを構築して取り組み、探求的な学びを実現し、地域振興の核としての高等学校の機能強化を図る。同事業において、アソシエイト採択された糸魚川市ではコンソーシアム設立に向けて動き出している。

新潟県の取り組みとして、「アカデミックインターンシップ」が挙げられる。この事業では、大学の研究室が高校生をインターンシップ実習生として受け入れをする。また、令和元年度から県内 4 校で、普通科における「探求推進校」を設置している。

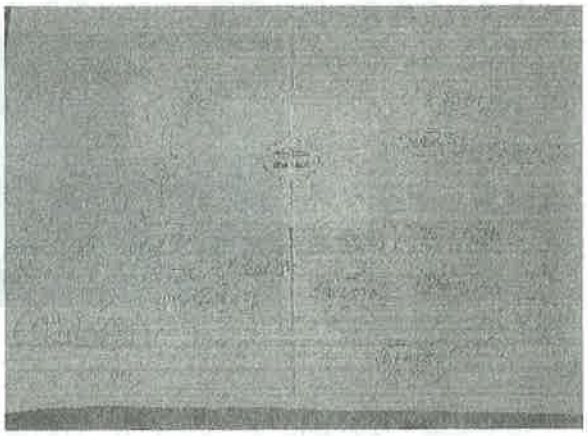
大学入試についても、求められる力が変化している。入試において知識・技能だけでなく、高校時代の学習・活動履歴や、面接・集団討論などで主体性をもって多様な人々と共同して学ぶ態度なども必要となっている。

グループワーク１

各コースに分かれ地域連携の舞台となる糸魚川についての課題や魅力を A1 サイズの紙に書き出した。



各コースに分かれて活動する様子



糸魚川の課題・魅力

レクチャー２

新潟市立高校の取り組み

「課題解決型インターンシップ」

、社会が多様に変化をしていく中で、生徒が進路決定の際に、動機を伴った正しい進路選択をする必要がある。そのため、同事業では、探求的な活動を通して、生徒のシビックプライドを育み、地域を支える人材となることを目指す。

生徒は、市役所から与えられた課題の解決を目指す。この事例では、スポーツ振興課の「プロスポーツチームが地域と絆を深め、ともに支え合う支援策」に挑戦した。生徒は課題を解決するための仮説を立てて、市役所に提案を行い、それを受けた市役所が行動を起こした。

この活動を通して、生徒の聞き取りやアンケートをもとに次の力が身についた。アクションを起こすための主体性や、課題を考えるための課題発見能力、チームで働くための状況把握力やストレスコントロール力などである。これらは、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」として、経済産業省が2006年に提唱した「社会人基礎力」に照らし合わせたものである。

グループワーク２

地域連携活動のアイディアの検討

来年度の地域連携活動にについて協議した。まず、地域連携活動を通してどのような力を育みたいのか考える。その結果、自身の経験を自身の言葉で表現し伝える力や様々な人々と協力する力が挙げられた。続いて、その能力を育てるために具体的にどのような方法をとるのか検討した。

そこでは、体験乗船で生徒が船内の案内を行うことやリーダーを明確に定め、学年をまたいだ実習を行うことなどが挙げられた。

その後、これまでの活動に対して疑問点や課題を整理した後に、来年度以降の活動や生徒の到達をまとめた。この活動を通してこれからの活動に対する見通しや目標を各コースで持つことができた。

各グループでまとめた意見

今大会では、これまでの活動を振り返り、課題等を整理することができた。この成果を来年度の活動に活かしたい。

家庭科部会

1　全県講習会

期　日　　令和元年８月８日（木）
会　場　　ミュゼ雪小町（上越市）
参加者　　29名

（1）　開会

①部長挨拶

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会部長
新潟県立長岡大手高等学校長
山本　　久

②主幹校校長挨拶

新潟県立高田農業高等学校長
竹内　正宏

③来賓挨拶

新潟県教育庁高等学校教育課指導主事
櫻井　直子　様

（2）講習

演題「モンテッソーリ教育
　　～私が一人でできるように手伝ってね～」
講師　上越カトリック天使幼稚園教諭
長崎　八寿代　様

［内容］

長崎先生は、上越カトリック天使幼稚園にてモンテッソーリ教育の研修を積まれ、2009年に京都モンテッソーリ教師養成コース基礎コースを修了された。現在勤続16年目、主幹教諭として活躍されている。

講習では、モンテッソーリ教育についての基本となる４つのキーワードを教えていただいた。

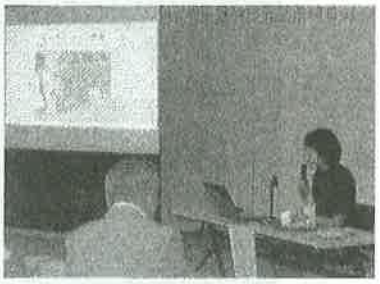
＜敏感期＞敏感な幼児期に適切な環境と援助が大切である。

＜自由選択＞①自分が自由にとりかかり②やり始めたことに続けて取り組み③そのことに全力を傾け（没頭）④「できた」という達成感から自分でやめること

＜秩序感＞子どもにとって秩序があることは、落ち着くことができ、安心して動くことができる条件

＜たてわり保育＞同じ部屋の中に３学年が一緒に生活することが大切。

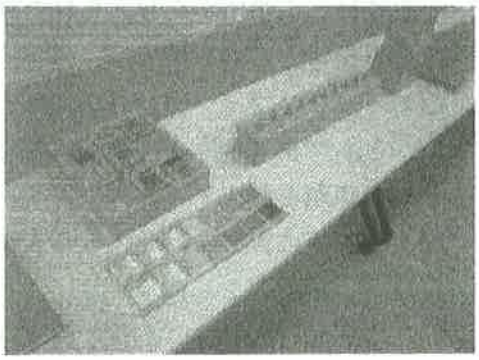
４つのキーワードを念頭に置きながら、園児の一日を通して様々な活動を説明していただいた。



【講習風景】

後半は様々な教具について使い方、目的等を説明していただいた。

【教具紹介風景】



（３）講習・演習

演題　「高校家庭科で学ぶ消費者教育のキモ
～考え行動する消費者の育成～」

講師　横浜国立大学名誉教授
西村　隆男　様

［講師紹介］

2017年３月退官、現在、横浜国立大学名誉教授、消費者教育推進委員会委員長（文科省）、金融広報中央委員会委員、金融経済教育推進会議委員、日本消費者教育学会顧問等。専門は消費者教育、金融教育。

著書に「消費者教育学の地平」（慶應義塾大学出版会）、「社会人なら知っておきたい金融リテラシー」（祥伝社）等

【講習・演習風景】

［内容］

新学習指導要領において、新たに取り組むこと、これから重視することの中に「主権者教育」と並んで「消費者教育」が取り入れられている。契約の重要性や消費者の権利と責任などについて学習し、自立した消費者として活動する力を育むことが求められる。

消費者教育重視の背景としては、次の４点があげられる。１点目として消費者教育推進法の制定がある。２点目として成年年齢の引き下げがある。３点目は金融経済教育の重視があげられる。４点目はＳＤＧｓの推進と持続可能性。世界を変えるための 17 の目標について教えていただいた。

後半は「にいがたスペシャルワーク 2019」と題して、下のワークシートを使用して演習を行った。

<にいがたスペシャルワーク2019>

ワーク1　72ルール

100万円が2倍になるまでの年数

金利が 2%とすると ➡ 【　　】 年

金利が 10%とすると ➡ 【　　】 年

10年で2倍にしたい ➡ 必要な金利は 【　　】 %

5年で2倍にしたい ➡ 必要な金利は 【　　】 %

ワーク2　分散投資

■ドルコスト平均法

	9/10	10/10	11/10	12/10	1/10	2/10	合計
積立額	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	180,000
金価格	4,615	4,644	4,360	4,418	4,580	4,658	平　均
購入量(g)		6.46	6.88	6.79	6.55		全体量

Q1　9/10に18万円で購入すると、購入量は【　　】g

Q2　2/10に18万円で購入すると、購入量は【　　】g

クイズ　正しいと思うものに○をつけましょう。

①金利が上昇しそうな局面では、住宅ローンは（固定金利、変動金利）をえらぶべき。

②金利が低い局面では、住宅ローンは（固定金利、変動金利）をえらぶべき。

③交通事故を起こした場合、自賠責保険により損害は全額カバー（される、されない）。

④20歳から60歳まで国民年金を納めた人の現在の受け取り年金額は、（約120万円、約70万円、約50万円）である。

⑤金利が上昇すると、通常、債券価格は（上がる、下がる、変化しない）。

ワーク3　生涯設計としてのセカンドライフ

①セカンドライフの生活費を計算します

夫婦二人で生活する期間（A）　一人で生活する期間（B）

【　　】年　＋　【　　】年

生活費月額26万円（2017家計調査　高齢夫婦無職世帯平均値　263,717円）

（A）　26万円×12か月×【　　】年＝【　　】万円

＋（B）26万円×70%×12か月×【　　】年＝【　　】万円

＝【　　】万円 ☚セカンドライフの生活費総額

平均的年金額　240万円として、過不足を計算しましょう。

年金総額【　　】万円－生活費総額【　　】万円＝【　　】万

2　家庭科部会委員会

期　日　　令和元年11月28日（木）
会　場　　新潟県立長岡大手高等学校
　　済美会館
出席者
　新潟県高等学校教育研究会家庭科部会部長
　新潟県立長岡大手高等学校長
　　山本　　久
　新潟県立吉田高等学校教頭
　　丸山　綾子
　家庭科部会各校代表等　　56名

（1）開会
　部長挨拶
　新潟県立長岡大手高等学校長
　　山本　　久
（2）議事・報告
　令和元年度事業報告・中間会計報告
　令和2年度事業計画案
（3）連絡
（4）第29回全国産業教育フェア新潟大会報告
　新潟県立長岡大手高等学校教諭
　　太田　明子
　新潟県立新潟中央高等学校教諭
　　堀越　さきみ
（5）講習
　演題「クレジットの基礎と利用上の留意点
　　～キャッシュレス社会の歩き方～」
　講師　一般社団法人　日本クレジット協会
　　消費者・広報部
　　富田　佳奈　様

［内容］

当協会は、割賦販売法に基づく「認定割賦販売協会」及び個人情報保護法に基づく「認定個人情報保護団体」の認定を受けており、それらの法的機能とクレジット業界団体としての機能を併せ持つ団体として活動を行っている。当協会の活動は、クレジット取引の公正を維持し、クレジット取引に携わる関係事業者の業務の適正な運営を確保すると共に消費者の利益保護とその消費生活向上を実現することでクレジット産業の健全な発展に資することを目的としている。会員数：947社（正会員423社、準会員524社 令和元年7月1日現在）

クレジット教育センターは、平成元年に文部省（現文部科学省）の学習指導要領が改訂され、学校における消費者教育の充実が求められたことを契機に、旧：社団法人日本クレジット産業協会に設置された。日本クレジット協会となり、法の定める認定団体に変更となった現在も、学校を中心に、クレジット教育の支援活動を継続して実施している。

●「クレジット」と「ローン」の違いについて
　○クレジット・・・商品やサービス（役務）の代金を、後から支払う仕組み。三者間の契約になる。
　○ローン・・・・・必要な額の「お金」を借り、後から支払う仕組み。二者間の契約になる。

「クレジット」と「ローン」の両者を合わせて「消費者信用」という。

★共通しているのは、次の2点。
　① 消費者個人の「信用」に基づく契約
　② 支払い・返済は契約後にする

●支払方法の種類
　○即時払い　①現金で支払い
　　②デビットカードを利用
　○前払い　①商品券やギフトカードを利用
　　②プリペイドカードを利用
　　③チャージした電子マネーを利用
　○後払い　①クレジットカードを利用
　　②個別クレジットを利用
　○その他　①ポイントカードに貯めたポイントを利用
　　②無料券や優待券を利用

★モバイル決済は、カードを利用せずに、スマートフォンの機能でキャッシュレスで買い物ができるサービス。各決済のアプリをダウ

ンロードし、そのアプリに保有するクレジットカード、デビットカード、電子マネー等を登録して利用する。

●2017 年での日本のキャツシュレス比率は約20%。諸学国に比べ比較的低い。

●キャッシュレス社会の実現に向けた取組の加速

○2018 年４月に経済産業省が、日本のキャッシュレスの方向性を取りまとめた「キャッシュレス・ビジョン」を公表。政府は 2027 年に４割とする目標を、2025 年大阪万博時に前倒しした。

○経済産業省は、2019 年 10 月の消費税増税に伴い、消費の平準化とキャッシュレスの推進のために、中小の販売店でキャッシュレスで商品を購入すると５％のポイントを還元する制度を準備。

★なぜ「キャッシュレス」にしたいのか

→労働人口減少のため、生産性を向上させたい。

①店舗の無人化・省略化

②犯罪の抑止、税収向上

③支払データの利活用　　他

●最近の協会からの注意喚起

○スマホ（携帯電話）の機種代金の支払いもクレジット契約？

→スマートフォン（携帯電話など）を契約するとき、月々の利用料金と機種代金を分割払いにして支払う人が多い。

これは、機種代金は分割で支払っていることが多く、契約はクレジット（個別クレジット）となる。携帯キャリア会社（通信事業者）は、クレジット事業者としても登録している。

この契約は、クレジット契約であれば、指定信用情報機関（シー・アイ・シー）に登録される。

支払い遅延があれば、以後のクレジットの審査の参考にされる。

○親のクレジットカードで子供がオンラインゲームを！

→「子供がオンラインゲームをするために親のクレジットカードを利用し、有料サービスの請求を受けた」などの相談事例が散見される。

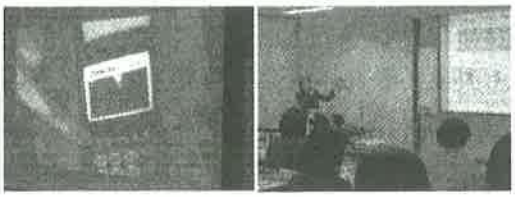
2013 年 12 月から、国民生活センターが注意喚起している。

親が同意の上、利用させていたというもののほかに、子供が親に内緒で親のカード情報を入力して利用したというものもある。

★子供のインターネット利用について家族で話し合い、ルールつくる。

★会員専用 Web サイト利用後は、必ずログアウトする。（ＩＤやパスワードの入力が必要な状態に戻す）

★クレジットカードや、パスワードなどを勝手に使われないよう管理する。



【講習風景】

クレジットは、商品等の購入のために消費者が選択できる支払い手段の１つ。契約するかしないかは、自分が決める。

（６）閉会

①指導講評

新潟県立吉田高等学校教頭

丸山　綾子

②部長挨拶

新潟県立長岡大手高等学校長

山本　　久

３　研究成果の刊行

「家庭科研究第 55 号」発刊

新潟県高等学校教育研究会家庭科部会、県教育委員会による研修授業、高等学校長協会家庭部会、技術検定関連実践報告等を集録。

保健体育部会

1　保健体育部会全県研究会

期　日　　令和元年１０月２５日（金）
会　場　　県立新潟東高等学校
参加者　　１７名

【公開授業】
「サッカー」
新潟東高等学校　教諭　五十嵐　公一

【研究協議】
新潟県教育庁保健体育課学校体育指導係
指導主事　　間　健太郎　様

【講演】
新潟大学教育学研究科教授
教授　吉澤　克彦　　様
「ハラスメントの防止のためのセルフチェク」

2　全県養護教諭研修会

期　日　　令和元年１０月２８日（月）
会　場　　じょいあす新潟会館
参加者　　８７名

【講演会】
オフィスいわむろ代表
医師　岩室　紳也　　様
研究会テーマ
「生きづらさを感じている子どもたち」

【研究発表】
養護教諭　渡部　美恵子　様
「つながりに関する養護教諭の意識調査」

3　刊行物
昨年度より、保健体育部会ＨＰに掲載

生徒指導部会

1　全県委員会

日時　第１回　７月　８日（月）
　　第２回　８月３０日（金）
　　第３回　１月２２日（水）

会場　県立巻高等学校　会議室

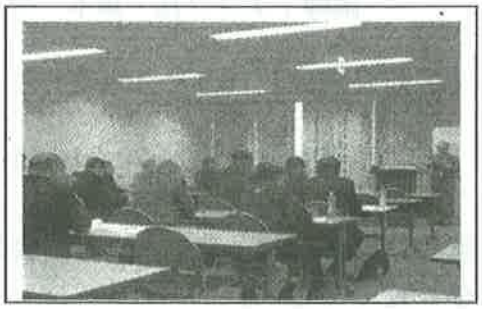
2　全県研究協議会

日時　１１月２０日（水）
会場　ハードオフエコスタジアム新潟
内容　講演会及び研究協議会
〈午前〉講演会
演題　「様々な課題を抱えている生徒の支援における専門機関との連携」
講師　新潟県教育庁生徒指導課
　　スクールソーシャルワーカー
　　山岸　直子・五十嵐　礼　様

〈午後〉研究協議会
第１分科会　「交通安全指導」について
第２分科会　「特別支援と生徒指導」について
第３分科会　「SNS・いじめ・自殺予防」について
発表及び講評
講評者　新潟県教育庁生徒指導課指導主事
　　稲生　一徳　様

3　地区研究会

日時　１０月２１日（月）
会場　燕地場産業振興センター
　　リサーチコア
内容　講演会及び研究協議会
演題　「生徒を取り巻く環境への理解
　　～心理学を通して」
講師　新潟青陵大学　　碓井　真史　様



4　刊行物

生徒指導部会誌　第５２号
内容　研究内容・資料・部会活動報告
冊数　４００冊

図書館部会

1　総会・講演会

期日　令和２年１月 15 日（水）
会場　県立生涯学習推進センター
参加者　13 名

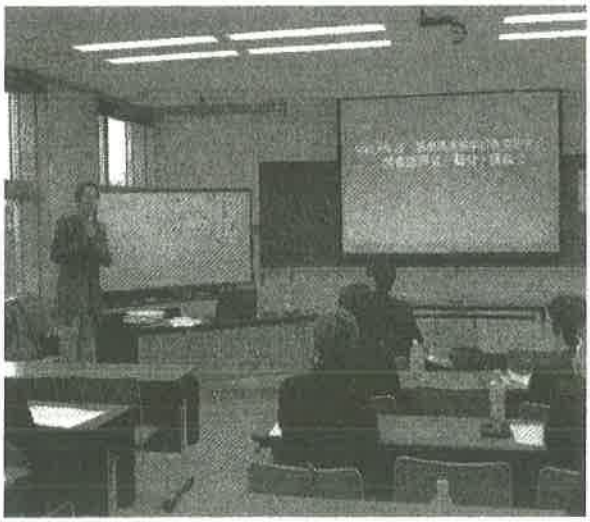
内容

【講演】14:30～16:00
「総合百科事典ポプラディア」の活用方法
講師：ポプラ社　齋木　小太郎様

【研究協議会】16:00～16:20

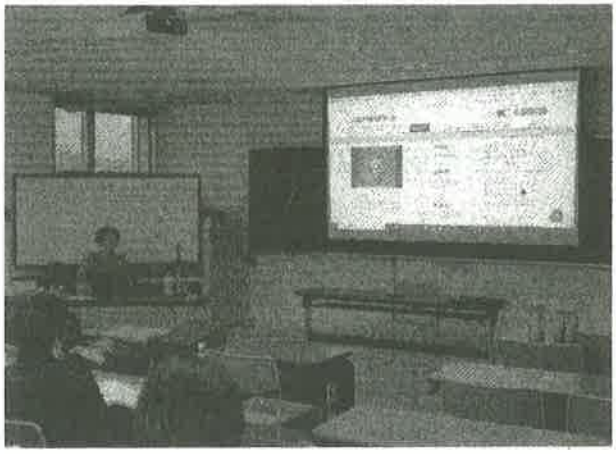
【図書館部会総会】16:20～16:45

講演や議案等については、『図書館部報』をご覧ください。



2　刊行物

『　図書館部報　』第６４号



視聴覚部会

1　視聴覚部会総会・研修会

会　場　新発田市　月岡温泉風鈴屋
期　日　8月16日（金）
　　総　会　13：30～
　　研修会　14：30～16：00
参加者　14人
総　会
　議　題
　(1)平成30年度事業総括
　(2)平成30年度決算報告
　(3)令和元年度事業計画
　(4)令和元年度予算案
　(5)令和元年度役員
　・部　長　佐渡総合高等学校
　　校長　阿部　正一
　・幹　事　長岡工業高等学校
　　平倉　政弘
　(6)その他
　・研究図書購入
　・NHK指導者講座受講奨励費
　・ＰＡ購入について
　・来年度幹事、研究誌編集担当

研修会
　講師　松本深志高校放送部
　　顧問　林　直哉　先生
　演題　「生徒の社会活動と
　　番組制作の視点」

2　指導者研修の実施

(1)生徒講習会と共に実施した指導者研修

①放送技術初心者講習会
・新潟下越地区　4月28日(日)　9:30~
　万代市民会館にて　参加者9人
・上中越地区　4月29日（月）9:30~
　まちなかｷｬﾝﾊﾟｽ長岡にて　参加者6人
②放送技術者冬期講習会
　1月13日（月）9:30～
　まちなかｷｬﾝﾊﾟｽ長岡　参加者8人

(2)その他の研修

当部会は、ＮＨＫ校内放送技術者講座への参加を推奨しています。読みや番組の指導方法や審査技術を習得することができ、修了時には、ＨＮＫ杯全国高校放送ｺﾝﾃｽﾄの審査員として認証する「審査員証」が交付されます。また、参加者には、ＮＨＫ新潟放送局からの補助金による研修補助制度も有り参加しやすいものになっています。まだ、受講経験の無い会員の皆様にぜひご参加いただきたいと思います。

　12月26日（木）～27日（金）
　東京都　千代田放送会館　参加者2人
※春期講習会は新型ｺﾛﾅｳｲﾙｽ対策のため中止

3　コンテストの主催及び共催

放送コンテスト県内大会の主催および高文連放送専門部との共催を行い、こうした大会の審査・運営を通して指導技術の向上を図っています。また、日程・大会結果は、本部会刊行誌「視聴覚教育研究」に掲載します。

(1)NHK 杯全国高等学校放送コンテスト新潟県大会（主催）
　6月13日(水)　参加者19人
(2)ＱＫ杯新潟県校内放送コンクール（共催）
　11月10日(日)　参加者22人
　　※以上参加者数は事業参加教職員数

4　刊行物

名　称　視聴覚教育研究　第57号
発行日　令和元年度末
部　数　１００冊
内　容　実践報告
　　コンテスト結果と事業報告
　　視聴覚部会規約
　　高等学校教育研究会規約
　　その他

定通部会

Ⅰ　定時制・通信制教育総合研究会

期　日　令和元年７月31日（水）
会　場　ホテルイタリア軒
当番校　高田南城高等学校
参加者　169名
主　題　「未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進」

1　研究発表

（1）進路指導

「本校定時制課程における進路指導について」

新潟翠江高等学校　教諭　土田　紘子

（2）特別支援教育

「本校における『通級による指導』について

長岡明徳高等学校　教諭　高井　章男

【指導助言】

高等学校教育課指導主事　山本　寛

2　講　演

「生徒に伝えたい幸福になる方法：ポジティブ心理学から」

新潟青陵大学　教授　碓井　真史

講師　碓井　真史　様

Ⅱ　役員会総会・理事会

＜第１回＞

期　日　令和元年５月28日（火）
会　場　新潟翠江高等学校
議　事　平成31年度役員の委嘱について
報　告　平成30年度事業報告
　　平成30年度決算報告
協　議　平成31年度事業計画について
　　平成31年度予算について
　　平成31年度定通総研について

＜第２回＞

期　日　令和２年２月10日（月）
会　場　長岡明徳高等学校
報　告　令和元年度事業報告
　　令和元年度決算中間報告
協　議　令和２度事業計画について
　　令和２年度定通総研について

Ⅲ　各校情報交換会

期　日　令和元年11月12日（火）
会　場　開志学園高等学校
参加者　73名
内　容　公開授業
　　情報交換（分科会）
　　①定時制教務
　　②通信制教務
　　③生徒指導
　　④特別支援教育
　　⑤進路指導

情報交換の様子

Ⅳ　県外視察

期　日　令和元年11月21日（木）
　　22日（金）
視察校　東京都立八王子拓真高等学校
　　東京都立稔ヶ丘高等学校
　　東京都立新宿山吹高等学校
参加者　２名
　　（西新発田１名、佐渡相川分校１名）

Ⅴ　刊行物

実践集録57号（令和２年２月10日発行）

高教研　国語部会　　令和元年度事業報告書

部長　富樫　信浩

研究会・講習会等の開催	目的	国語授業の改善と指導力の向上		
	期日	令和2年１月27日（月）	令和2年１月27日（月）	
	場所	じょいあす新潟会館	じょいあす新潟会館	
	研究会名称	運営委員会	全県研究協議会	
	研究会テーマ 「講演テーマ」	年度計画及び全県研究協議会の実施について 次年度活動計画	「新学習指導要領における国語科目の理解と対応について」 「新学習指導要領における指導と課題」	
	講師職氏名		県立教育センター 指導主事 中村敬行　氏	
	研究協議職・氏名		①新教育課程の編成状況について 各校代表者 ②全国動向について 村上桜ヶ丘高校 校長　北岸信治 指導主事講評 県立教育センター 中村　敬行指導主事	
	参加者数	４名	５８名	
研修分野の分類		②	②④	
研究調査	主要テーマ	特になし		
	調査の期日・場所・参加者数			
図書購入	図書名 冊数	特になし		
研究成果刊行物出版	名称	『国語研究』第６６集		
	主な内容	講演内容、各種研究研修報告等		
	冊数	２００冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　国語部会　令和２年度事業計画（案）

部長　富樫　信浩

研究会・講習会等の開催	目　　的	国語授業の改善と指導力の向上		
	期　　日	６月下旬	１０月下旬	３１年１月
	場　　所	じょいあす新潟会館	じょいあす新潟会館	じょいあす新潟会館
	研究会名称	運営委員会	全県研究協議会	運営委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	年度計画の検討 全県研究協議会の実施計画	「思考力・判断力・表現力の育成を目指した授業改善について」 講演テーマ未定	年度活動の反省 次年度活動計画
	講師職氏名		講師未定	
	研究発表テーマ・職・氏名		発表者未定（２名） 指導主事講評 県立教育センター指導主事	
	参加者数	１５名	約８０名	１５名
研究分野の分類		②	①②③④⑤⑥	①
研究調査	主要テーマ	特になし		
	調査の期日場所・参加者数			
図書購入	図書名 冊数	特になし		
研究成果刊行物出版	名　　称	『国語研究』６７集		
	主な内容	研究協議会発表・講演内容、各種研究研修報告等		
	冊　　数	２００冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　地理歴史・公民部会　令和元年度事業報告書

部長　遠間　春彦

研究会・講習会等の開催	目的	地理歴史・公民教育の諸問題に関する研究		
	期日	6月28日（金）	8月20日（火）	9月26日（木）
	場所	駅南コミュニティセンター	中条高等学校	長岡向陵高等学校
	研究会名称	総会・研究協議会	地理研究会	歴史研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	地歴科目を中心とした新学習指導要領への対応 「ＧＩＳを活用した新科目『地理総合』のあらたな可能性」 「新学習指導要領の学習の構造－歴史領域科目を中心に－」	胎内市の産業、資源、自然と歴史	新科目「公共」への対応 「新必修科目「公共」とは何か？「公共」の授業の創り方」
	講師職氏名	にいがたＧＩＳ協議会 会長　坂井　宏子　様 国立教育政策研究所 教育課程調査官　藤野　敦　様		福井大学学術研究院教育・人文社会系部門教授　橋本　康弘　様
	研究発表 テーマ・職・氏名		○巡検 「新潟製粉株式会社→中条グランドホテル（昼食）→シンクルトン記念館・石油公園→乙宝寺→どっこん水湧水地」	○実践発表 「トゥールミン・モデルを活用した知識構成型ジグソー法による授業」 （発表者） 正徳館高等学校教諭 小林　真也
	参加者数	36名	13名	25名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①②④	①⑤⑦	①②③④
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
購入図書	図書名 冊数			
研究成果刊行物出版	名称	『地理歴史・公民研究』　第５８集		
	主な内容	研究会報告、研究論文・実践報告、私の教材紹介、センター試験問題講評、地歴、公民の広場など		
	冊数	３１０冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　地歴・公民　部会　令和２年度事業計画

部長　　遠間　春彦

研究会・講習会等の開催	目的	地理歴史・公民教育の諸問題に関する研究		
	期日	６月 26 日（金）	８月 21 日（金）	11 月上旬
	場所	万代市民会館	内野まちづくりｾﾝﾀｰ	新潟明訓高等学校（予定）
	研究会名称	総会・研究協議会	地理研究会	地理歴史研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	地理歴史・公民科全体を通じて行う主権者教育 「模擬○○『あなたは○○です』活動で、本当に学びは真正になるのか：授業作りにおける主権者という視座の必要性」	胎内市の史跡及び地理教材の探究	地理歴史科の新科目実施に向けた授業実践報告と教材・考査問題検討
	講師職氏名	東京学芸大学教育学部准教授 渡部　竜也　様	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	○実践報告 発表者未定	○巡検（予定見学先）・西区（内野）内野駅前商店街・新川漁港・酒造会社・西蒲区（松野尾・下山）砂丘地のブドウ畑と醸造業、６次産業化の現場	○実践報告 小グループに分かれての意見交換会を複数回実施 発表者未定
	参加者数	未定	未定	未定
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①②③④	①②⑤	①②③④⑦
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
購入図書	図書名 冊数			
研究成果刊行物出版	名称	『地理歴史・公民研究』　第５９集		
	主な内容	研究会報告、研究論文・実践報告、私の教材紹介、大学入学共通テスト問題講評、地歴・公民の広場など		
	冊数	３１０冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　数学部会　令和元年度事業報告書

部長　吉田　保夫

研究会・講習会等の開催	目的	学力の向上を目指した数学教育の研究			
	期日	７月２日（火）	１０月２５日(金)	１１月１１日(月)	１１月２９日(金)
	場所	下越地区 （じょいあす新潟会館）	中越地区 （長岡市立劇場）	新潟地区 （新潟県立新潟江南高等学校）	上越地区 （柏崎市産業文化会館）
	研究会名称	数学教育研究会	全県研究協議会 兼北陸四県数学教育研究大会	中高連絡協議会	地区研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	高等学校における数学教育の諸問題について 「数学と最近の理学部と私」	深い学びを探究し、創造性・社会性をはぐくむ算数・数学教育 「五感を総動員して、創造性を深めよう」	教科における中高の指導方法について 「主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善について」	高等学校における数学教育の諸問題について 「データサイエンスが切り開く日本の未来」
	講師職氏名	新潟大学理学部数学プログラム教授 三浦　毅　氏	東京理科大学特任副学長兼理数教育研究センター長 秋山　仁　氏	新潟市中学校教育研究会数学部顧問代表 新潟市小合中学校長 皆川　宏志　氏	横浜市立大学学長補佐医学部臨床統計学主任教授データサイエンス推進センターセンター長 山中　竹春　氏
	研究発表テーマ・職・氏名	「新潟大学入学試験問題の分析について」 県立新潟南高等学校 教諭・前田振	「生徒が先生になる授業～生徒自身が『教える』ことで理解を深める取り組み～」 県立高田北城高等学校 教諭・村山勝彦 「学習から学問へ～『問い』と『解決』における数学の役割～」 県立三条高等学校 教諭・山上達郎 「平成31年度新潟大学入学問題の分析」 県立新潟南高等学校 教諭・前田振	授業公開 県立新潟江南高等学校 教諭・渡邉正 教諭・阿部英敬 教諭・小湊知見 教諭・江村英里花 教諭・坪井温子 教諭・鈴木孝紀 教諭・石塚正宏	「生徒が先生になる授業～生徒自身が『教える』ことで理解を深める取り組み～」 県立高田北城高等学校 教諭・村山勝彦 「学習から学問へ～『問い』と『解決』における数学の役割～」 県立三条高等学校 教諭・山上達郎
	参加者数	８５名	約９０名	４３名	７４名
研修分野の分類		①，③	①，③	①，③，⑥	①，③
研究調査	主要テーマ	数学力向上のための意欲を引き出す授業展開			
	調査の期日場所・参加者数	各県内高等学校			
図書購入	図書名 冊数	なし			
研究成果刊行物出版	名称	「数学教育研究集録」第５８号			
	主な内容	会員の実践研究，研究大会報告及び講演内容			
	冊数	３５０冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　数学部会　令和２年度事業計画（案）

部長　吉田　保夫

研究会・講習会等の開催	目的	学力の向上を目指した数学教育の研究			
	期日	７月（予定）	１０月（予定）	１１月（予定）	１２月（予定）
	場所	中越地区	上越地区	新潟地区	下越地区
	研究会名称	数学教育研究会	全県研究協議会	中高連絡協議会	地区研究協議会
	研究会テーマ「講演テーマ」	高等学校における数学教育の諸問題について「未定」	高等学校における数学教育の諸問題について「未定」	教科における中高の指導方法について「未定」	高等学校における数学教育の諸問題について「未定」
	講師職氏名	未定	未定	未定	未定
	研究発表テーマ・職・氏名	「新潟大学入学試験問題の分析について」未定	未定	未定	未定
	参加者数	８０名（予定）	８０名（予定）	５０名（予定）	８０名（予定）
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①，③	①，③	①，③，⑥	①，③
研究調査	主要テーマ	数学力向上のための意欲を引き出す授業展開			
	調査の期日場所・参加者数	各県内高等学校			
図書購入	図書名冊数	未定			
研究成果刊行物出版	名称	「数学教育研究集録」第５９号			
	主な内容	会員の実戦研究、研究大会報告及び講演内容			
	冊数	３５０冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　理科部会　令和元年度事業報告書

部長　　加藤　徹男

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する			
	期日	7月9日（火）	10月30日（水）	10月30日（水）	11月11日（月）
	場所	新潟薬科大学	三条高校	新潟地方気象台	巻総合高校
	研究会名称	理科部会 第1回役員会	理科部会 物理教育研究会	理科部会 地学教育研究会	理科部会 化学教育研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「『窒素酸化物』考：有機反応というフィルターを通して窒素酸化物を考える～」	魅力ある理科の授業 「医療における物理学　～医学物理学と医学物理士～」	「新潟県における近年の異常気象・気象災害について」	「小型燃料電池の制作　～実験を通した主体的・対話的で深い学びについて～」
	講師職氏名	新潟薬科大学 杉原多公通教授	新潟大学 宇都宮悟准教授	新潟地方気象台 永田俊光氏	都留文科大学 山田暢司特任教授
	研究発表 テーマ・職・氏名	H30事業報告 ・決算報告 R1事業計画 ・予算案	「フッ素樹脂の摩擦係数」　新潟県央工業・山本岳 「体験入学で体験してもらったこと」新潟・小熊好弘 「生徒実験の進め方についての一考察」　新潟中央・本田崇 「生徒による実験」長岡大手・藤石碧 「箔検電器を用いた電流のイメージ形成の授業実践」高田北城・小林力		「Office365Teamsを活用した授業実践　～ほぼ無料で授業のＩＣＴ化を進めたい～」 高田・関沢秀栄
	参加者数	29名	22名	14名	21名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		②⑦	①②③	①⑤⑦	①②③⑦

高教研　　理科部会　令和元年度事業報告書

部長　加藤　徹男

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する			
	期日	11月20日（水）		1月31日（金）	（　）
	場所	新潟南高校		新潟県立植物園	
	研究会名称	理科部会 生物教育研究会		理科部会 第2回役員会	
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「高校の設備や時間割の中での課題研究の実践例」	「生徒が主体的に研究にのめり込む、互恵的で生産的な研究班への導き方」		「　」
	講師職氏名	新潟南高校 新野貴大教諭	日本歯科大学 長田敬五教授		
	研究発表 テーマ・職・氏名	「柏高SSHの現状について」柏崎・増井陽子 「各種学会の『高校生ポスター発表』を活用した研究指導」　新潟中央・増村英夫 「海からの贈り物」　新潟南・間島絵里子 「免疫分野の内容と指導」 高田南城・宮本俊彦		R1事業報告・決算報告 R2事業計画・予算案	
	参加者数	25名		19名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①②③		②③	
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数				
研究成果刊行物出版	名称	理科研究集録第59号			
	主な内容	研究報告・講演要旨			
	冊数	250冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　理科部会　令和２年度事業計画（案）

部長　加藤　徹男

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する			
	期日	７月上旬	10～11月	10～11月	10～11月
	場所	未定	未定（上越地区）	未定（下越地区）	未定（下越地区）
	研究会名称	理科部会 第１回役員会	理科部会 物理教育研究会	理科部会 化学教育研究会	理科部会 生物教育研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	未定	未定	未定
	講師職氏名	未定	未定（県内講師）	未定（県内講師）	未定（県外講師）
	研究発表 テーマ・職・氏名	R1事業報告 ・決算報告 R2事業計画 ・予算案 その他	未定	未定	未定
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		②⑤⑦	①②③	①②③	①②③
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数				
研究成果刊行物出版	名称	理科研究集録第60号			
	主な内容	研究報告・講演要旨			
	冊数	200～250冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　理科部会　令和２年度事業計画（案）

部長　加藤　徹男

研究会・講習会等の開催	目的	理科教育の研究・発展に資する			
	期日	10～11月	1月下旬 ～2月上旬	（　）	（　）
	場所	未定（下越地区）	未定		
	研究会名称	理科部会 地学教育研究会	理科部会 第２回役員会		
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	未定	「　」	「　」
	講師職氏名	未定（県内講師）	未定		
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	R2事業報告 ・決算報告 R3事業計画 ・予算案		
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①②③	②⑤⑦		
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数				
研究成果刊行物出版	名称	理科研究集録第60号			
	主な内容	研究報告・講演要旨			
	冊数	200～250冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　芸術部会　令和元年度　事業報告書

部長　　大田　英則

研究会・講演会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる					
	教科	全体	音楽	美術			書道
	期日	6月19日（水）	10月1日（火）	8月6日（火）	8月20日（火）	10月31日（木）	12月2日（月）
	場所	高田北城高等学校 新井高等学校	りゅーとぴあ	子ども創造センター・食育花育センター	ギャラリーみつけ	豊栄高等学校	まちなかキャンパス長岡
	研究会名称	芸術部会総会 研究協議会	音楽科研修会	第32回新潟県美術教育大会下越大会	美術科研修会	公開研究授業 研究協議会	書道科研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	・総会 ・公開授業 ・研究協議会 ・分科会	・りゅーとぴあ施設見学 ・バイオリンレッスン ・研究協議	大会テーマ「つながる・ひりがる」 ・高校分科会 午後 ・ワークショップ ・鑑賞講座	実技研修会「七宝焼」	・文部科学省　教育課程研究指定事業研究授業 ・研究協議	・研修会 書道Ⅰの授業について詳細な意見交換をする ・先進校視察報告 ・全高書研岡山大会報告
	講師職氏名	講演会なし	武田圭司　氏	荒井 良二 氏（午後）	枝村 左門 氏	東良 雅人　氏	なし
	研究発表 テーマ・職・氏名	・公開授業 【音楽】 高田北城高等学校 教諭　上野 敦子 【美術】 高田北城高等学校 教諭　津幡　潔 【書道】 新井高等学校 教諭　成田 年樹		・紙面実践発表 豊栄高等学校 教諭　片桐 泰紀 ・分科会 実践発表 中越高等学校 教諭　北村 和則		・公開授業 「地域連携授業」 豊栄高等学校 教諭　片桐 泰紀	・楷書について　3名 ・行書について　4名 ・仮名について　3名
	参加者数	31名	11名	7名	10名	7名	14名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①、③、⑥	①、②、⑤、⑦	①、②、③、⑦	①、②、③、⑦	④、⑥	①、②、③、④
研究調査	主要テーマ	県外芸術教育先進校視察					
	調査の期日 場所・参加者数	期　日：11月19日（火） 場　所：埼玉県立川口高等学校 視察者：長岡農業高等学校　教諭　金子 達雄、中越高等学校　教諭　伊藤 優一					
購入図書	図書名 冊数	なし					
研究成果刊行物出版	名称	報告集をまとめ、会員へ総会時に配付またはメール配信する					
	主な内容						
	冊数						

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　芸術部会　令和２年度　事業計画書

部長　大田　英則

研究会・講習会等の開催	目的	会員相互の研修を深め芸術教育の向上をはかる				
	教科	全体	音楽	美術		書道
	期日	６月中旬	未定	８月11日（火）～13日（木）	８月18日（火）	10月
	場所	豊栄高等学校	未定	富山県民会館	ギャラリーみつけ	未定
	研究会名称	芸術部会総会 研究協議会	音楽科研修会	美術科研修会	美術科研修会	書道科研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	・総会 ・公開授業 ・研究協議会 ・分科会	未定	第57回全高美工研2020富山大会 「再発見!～美術、工芸教育の可能性～」	実技研修会 版画技法など	未定
	講師職氏名	講演会なし	未定		未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	・公開授業 【音楽】 豊栄高等学校 教諭　鈴木彩子 【美術】 豊栄高等学校 教諭　片桐泰紀 【書道】 豊栄高等学校 講師				
	参加者数	71名	24名	17名		25名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①、③、⑥	①、②、③、⑦	①、②、③、④⑤、⑥、⑦	①、⑦	①、②、⑦
研究調査	主要テーマ	県外芸術教育先進校視察				
	調査の期日 場所・参加者数	期　日：未定　　場　所：未定 参加者：音楽教諭２名				
図書購入	図書名 冊数	未定				
研究成果刊行物出版	名称	（報告集をまとめ、会員へ総会時に配付またはＨＰで配信する）				
	主な内容					
	冊数					

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　英語部会　令和元年度事業報告書　その１

部長　萩野　俊哉

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上			
	期日	8月19日（月）	10月20日（日）	10月24日（木）	10月27日（日）
	場所	アオーレ長岡	柏崎市市民プラザ、県立生涯学習推進センター	県立新潟中央高校	県立高志中等教育学校
	研究会名称	夏季研修会	英語スピーチコンテスト地区予選	全県英語科研究協議会	新潟県高校生英語ディベート大会
	研究会テーマ「講演テーマ」	英語教育の推進と向上「夢中になるから英語が話せる」	なし	英語教育の推進と向上「英語学習ポートフォリオとプロジェクト型学習」	なし
	講師職氏名	英語芸術学校MARBLES主宰小口真澄先生	なし	明星大学教授清田洋一先生	なし
	研究発表テーマ・職・氏名	実践発表：廣澤卓郎（県立新発田高校教諭）ワークショップ：菅家茜（県立上越総合技術高校教諭）	なし	公開授業：中村望・仲川裕子・高橋有香（県立新潟中央高校教諭）ほか分科会	なし
	参加者数	40人	77人（生徒）	115人	21チーム（生徒）
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		②③④⑦	なし	②③④⑥⑦	なし
研究調査	主要テーマ	授業改善・授業公開・評価			
	調査の期日場所・参加者数	7月15日（土）県立新潟中央高校20名、9月23日（月）県立新潟中央高20名、9月23日（月）まちなかキャンパス長岡10名、12月29日（日）サクラーレ福住20名、他			
購入図書	図書名冊数	なし			
研究成果刊行物出版	名称	「英語部会誌」第６４号			
	主な内容	夏季研修会報告、全県研究協議会報告、スピーチコンテスト報告ディベート大会報告、各プロジェクト活動報告、その他報告等			
	冊数	３５０冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　英語部会　令和元年度事業報告書　その２

部長　萩野　俊哉

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上			
	期日	11月2日（土）	3月8日（日）		
	場所	県立生涯学習センター	アオーレ長岡	左記の3月8日の事業は中止	
	研究会名称	英語スピーチコンテスト本選	スプリングセミナー		
	研究会テーマ「講演テーマ」	なし	英語教育の推進と向上「モチベーショナル・ストラテジー（動機づけ指導）の理論と実践」		
	講師職氏名	なし	順天中学・高等学校教諭　和田玲先生		
	研究発表テーマ・職・氏名	なし	なし		
	参加者数	20人（生徒）	40名（予定）		
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		なし	①②③④⑦		
研究調査	主要テーマ	授業改善・授業公開・評価			
	調査の期日場所・参加者数	7月15日（土）県立新潟中央高校20名、9月23日（月）県立新潟中央高20名、9月23日（月）まちなかキャンパス長岡10名、12月29日（日）サクラーレ福住20名、他			
図書購入	図書名冊数	なし			
研究成果刊行物出版	名称	「英語部会誌」第６４号			
	主な内容	夏季研修会報告、全県研究協議会報告、スピーチコンテスト報告ディベート大会報告、各プロジェクト活動報告、その他報告等			
	冊数	３５０冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　英語部会　令和２年度事業計画（案）その１

部長　萩野　俊哉

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上			
	期日	８月	10月	10月	11月
	場所	未定	未定	未定	未定
	研究会名称	夏季研修会	高校生スピーチコンテスト（予選）	新潟県高校生英語ディベート大会	高校生スピーチコンテスト（本選）
	研究会テーマ「講演テーマ」	英語教育の推進と向上	なし	なし	なし
	講師職氏名	未定	なし	なし	なし
	研究発表テーマ・職・氏名	研究発表：県内英語科教諭	なし	なし	なし
	参加者数	100人	70人（生徒）	80人（生徒）	20人（生徒）
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①～⑦	なし	なし	なし
研究調査	主要テーマ	授業改善・授業公開・評価			
	調査の期日場所・参加者数	未定			
図書購入	図書名冊数	未定			
研究成果刊行物出版	名称	「英語部会誌」６５号			
	主な内容	研修会報告、プロジェクト活動報告、寄稿等			
	冊数	350部			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　英語部会　令和２年度事業計画（案）その２

部長　萩野　俊哉

研究会・講習会等の開催	目的	英語教育の推進と向上			
	期日	未定	未定		
	場所	未定	未定		
	研究会名称	全県研究大会	プロジェクト活動（研究講演会・ワークショップ等）		
	研究会テーマ「講演テーマ」	英語教育の推進と向上	英語教育の推進と向上		
	講師職氏名	未定	未定		
	研究発表テーマ・職・氏名	研究発表：県内英語科教諭など	未定		
	参加者数	100人	100人		
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①～⑦	①～⑦		
研究調査	主要テーマ	授業改善・授業公開・評価			
	調査の期日場所・参加者数	未定			
図書購入	図書名冊数	未定			
研究成果刊行物出版	名称	「英語部会誌」６５号			
	主な内容	研修会報告、プロジェクト活動報告、寄稿等			
	冊数	350部			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　農業部会　令和元年度事業報告

部長　熊谷　秀則

研究会・講習会等の開催	目的	農業教育の充実と発展		
	期日	8月21日（水）	10月26日（土）	12月6日（金）
	場所	じょいあす新潟会館	新発田農業高等学校	高田農業高等学校
	研究会名称	農業教育研究大会 （加茂農林高等学校）	農業教育課題研究会	農業教育課題研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	産業界で必要とされる資質・能力を見据えた農業教育を推進しよう 「産地直食から学んだもの」	「フラワーアレンジメントについて」	「プロジェクト学習について」
	講師職氏名	有限会社高儀農場 高橋　治儀　様	Candy by kandy 代表　江縫　和美　様 日本ﾌﾗﾜｰﾃﾞｻﾞｲﾅｰ協会ｺﾝﾃｽﾄ 審査員　丸山　春江　様	長野県上伊那農業高等学校 鏡　久雄　様
	研究発表テーマ・職・氏名	第1分科会「経営感覚の醸成を図るための学習指導について」 第2分科会「地域連携活動を活かした農業教育の取組について」 第3分科会「生徒募集・進路指導を見据えた活力ある学校づくりと情報発信について」	フラワーアレンジメントの実践及び全国産業教育フェア新潟大会	地域とつながり、地域に貢献するプロジェクト学習の進め方
	参加者数	47名	20名	18名
研究分野の分類		③②①	⑦②	③②
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書名 冊数			
研究成果刊行物出版	名称	「新潟県農業教育研究会誌」第54号（高田農業高等学校）		
	主な内容	研究論文・報告文・トピックス・その他		
	冊数	170冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　農業部会　令和２年度事業計画（案）

部長　熊谷　秀則

研究会・講習会等の開催	目的	農業教育の充実と発展		
	期日	８月２１日（金）	未定	
	場所	じょいあす新潟会館	未定	
	研究会名称	農業教育研究大会 （加茂農林高等学校）	農業教育課題研究会 （長岡農業高等学校）	
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	農業鑑定指導	
	講師職氏名	未定	未定	
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	未定	
	参加者数	未定	未定	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		③②①	⑦②	
研究調査	主要テーマ			
	調査の期日 場所・参加者数			
図書購入	図書名 冊数			
研究成果刊行物出版	名称	「新潟県農業教育研究会誌」第５５号（新発田農業高等学校）		
	主な内容	研究論文・報告文・トピックス・その他		
	冊数	１７０冊		

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　工業　部会　令和元年度事業報告書

（見学会の部）　　部長　太田　洋一

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	10月4日（金）	10月4日（金）	10月10日（木）	11月29日（金）
	場所	新潟工業高校 北斗会館	小松Iotセンタ 北陸	田村義肢製作所	新潟職業能力開発短期大学校
	研究会名称	建築見学会	土木見学会	機械・電子機械見学会・講習会	電気・電子見学会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	Holostruction～三次元データの活用による生産性向上技術～ 「　」	コマツ　スマートコンストラクション 「　」	「　」	「　」
	講師職氏名				
	研究発表テーマ・職・氏名				
	参加者数	２０名	１６名	１３名	１９名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①　⑤	①　⑤	①　⑤	①　⑤
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県工業教育紀要第56号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和元年度研究集録			
	冊数	２２０冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　工業　部会　令和元年度事業報告書

（見学会の部）　　部長　太田　洋一

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	11月29日（金）	1月24日（金）		
	場所	バイオマスレジン南魚沼	長岡工業高校		
	研究会名称	工業化学見学会	ロボット技術研究協議会		
	研究会テーマ「講演テーマ」	「　　」	「　　」	「　　」	「　　」
	講師職氏名				
	研究発表テーマ・職・氏名				
	参加者数	８名	１０７名		
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①　⑤	①　③		
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県工業教育紀要第56号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和元年度研究集録			
	冊数	２２０冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　工業　部会　令和元年度事業報告書

（研究会・講習会・講演会の部）　　部長　太田　洋一

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	10月3日（木）	10月4日（金）	10月10日（木）	11月29日（金）
	場所	新潟工業高校 北斗会館	新潟工業高校 北斗会館	新潟医療福祉大学	新潟職業能力開発短期大学校
	研究会名称	建築・土木 研究会	建築・土木 研究協議会	機械・電子機械 研究会	電気・電子 研究会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	鹿島建設協力会社との意見交換会 「　　」	「　　」	義肢装具自立支援学科施設見学・体験 「義肢装具士の役割～ものづくりの視点から～」 「　　」	「Python入門～実践」 「　　」
	講師職氏名			義肢装具自立支援学科長 東江由起夫教授	新潟職業能力開発短期大学校電子情報科 宇野達也氏
	研究発表テーマ・職・氏名				
	参加者数	２２名	２０名	１３名	１９名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①　③	①　③	①　⑤　⑦	①　⑦
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県工業教育紀要第56号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和元年度研究集録			
	冊数	２２０冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　工業　部会　令和元年度事業報告書

（研究会・講習会・講演会の部）　　部長　太田　洋一

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	11月29日（金）			
	場所	アトリウム長岡			
	研究会名称	工業化学研究会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	教育課程 令和３年度ものづくりコンテスト全国大会化学分析部門 各種大会輪番など 「　　」	「　　」	「　　」	「　　」
	講師職氏名				
	研究発表テーマ・職・氏名				
	参加者数	１１名			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①　③			
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県工業教育紀要第56号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和元年度研究集録			
	冊数	２２０冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　工業　部会　令和２年度事業計画（案）

（見学会の部）　　部長　太田　洋一

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	10月	未定	未定	未定
	場所	未定	未定	未定	未定
	研究会名称	工業化学見学会	機械・電子機械見学会	電気・電子見学会	建築見学会
	研究会テーマ「講演テーマ」	「　」	「　」	「　」	「　」
	講師職氏名				
	研究発表テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①　⑤	①　⑤	①　⑤	①　⑤
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日場所・参加者数				
図書購入	図書名冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県高等学校工業教育紀要第57号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和２年度研究集録			
	冊数	220冊			

①　専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　工業　部会　令和２年度事業計画（案）

（見学会の部）　　部長　太田　洋一

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	未定	１月		
	場所	未定	未定		
	研究会名称	土木見学会	ロボット技術研究協議会		
	研究会テーマ「講演テーマ」	「　」	ロボット技術研究協議会「　」	「　」	「　」
	講師職氏名				
	研究発表テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①　⑤	①　③　⑦		
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県高等学校工業教育紀要第57号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和２年度研究集録			
	冊数	220冊			

①　専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　工業　部会　令和２年度事業計画（案）

（研究会・講習会の部）　　部長　太田　洋一

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	10月	未定	未定	未定
	場所	柏崎工業高校	新潟県央工業高校	新津工業高校	新津工業高校
	研究会名称	工業化学研究会	機械・電子機械研究会	電気・電子研究会	建築研究会
	研究会テーマ「講演テーマ」	「　」	「　」	「　」	「　」
	講師職氏名				
	研究発表テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①　③　⑦	①　③　⑦	①　③　⑦	①　③　⑦
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日場所・参加者数				
図書購入	図書名冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県高等学校工業教育紀要第57号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和２年度研究集録			
	冊数	220冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　工業　部会　令和２年度事業計画（案）

（研究会・講習会の部）　　部長　太田　洋一

研究会・講習会等の開催	目的	効果的な学習指導を目指す教育活動と技術革新に対応するための研修会活動並びに研究成果の発表			
	期日	未定			
	場所	新発田南高校			
	研究会名称	土木研究会			
	研究会テーマ「講演テーマ」	「　」	「　」	「　」	「　」
	講師職氏名				
	研究発表テーマ・職・氏名				
	参加者数				
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		①　③　⑦			
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日場所・参加者数				
図書購入	図書名				
	冊数				
研究成果刊行物出版	名称	新潟県高等学校工業教育紀要第57号			
	主な内容	工業教育（講習会・見学会等の報告・工業教育研究発表事例・工業部会活動報告など）の令和２年度研究集録			
	冊数	220冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　商　業　部会　令和　元年度事業報告書

部長　仲　野　　孝

研究会・講習会等の開催	目　　的	経済社会の発展を担う商業教育の実現に向けての研修	
	期　　日	１１月１５日　（金）	
	場　　所	糸魚川白嶺高等学校・合名会社　渡辺酒造店	
	研究会名称	新潟県高教研商業部会研究会	
	研究会テーマ 「講演テーマ」	新科目・観光ビジネス 「糸魚川市の観光の取り組みと大学等との連携について」	マーケティング 「米づくりから酒づくりまで一貫生産」
	講師職氏名	糸魚川市産業部商工観光課 交流観光係係長 中村　真義　様	合名会社　渡辺酒造店 代表社員　渡辺　吉樹　様
	研究発表 テーマ・職・氏名	なし	
	参加者数	22名	
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①・②・④・⑤	
研究調査	主要テーマ	なし	
	調査の期日 場所・参加者数		
図書購入	図書名 冊数	ＤＶＤ「プロフェッショナル　仕事の流儀」　５枚	
研究成果刊行物出版	名　　称	新潟県商業教育第55号	
	主な内容	１．研究論文　２．実務競技大会報告　３．専門委員会報告 ４．各種研究会報告　５．検定試験結果報告と分析　６．その他	
	冊　　数	110冊	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　商業部会　令和２年度事業計画（案）

部長　仲　野　　孝

研究会・講習会等の開催	目的	経済社会の発展を担う商業教育
	期日	11月中旬
	場所	長岡商業高等学校
	研究会名称	未定
	研究会テーマ「講演テーマ」	未定
	講師職氏名	未定
	研究発表テーマ・職・氏名	未定
	参加者数	約20名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		未定
研究調査	主要テーマ	なし
	調査の期日場所・参加者数	
図書購入	図書名冊数	未定
研究成果刊行物出版	名称	新潟県商業教育　第56号
	主な内容	１．研究論文　２．実務競技大会報告　３．専門委員会報告 ４．各種研究会報告　５．検定試験結果報告と分析　６．その他
	冊数	約100冊

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　水　産　部会　令和　元　年度事業報告書

部長　椎谷　一幸

研究会・講習会等の開催	目的	本県の高等学校で水産・海洋教育に携わる教職員が集い、海洋・水産教育の諸問題について研究協議し、水産教育の充実と発展を目指す。			
	期日	12／24（火）	（　）	（　）	（　）
	場所	県立海洋高等学校（糸魚川市）			
	研究会名称	新潟県高等学校教育研究大会・水産部会			
	研究会テーマ「講演テーマ」	地域との交流・連携の取り方「これからの地域交流活動について」	「　」	「　」	「　」
	講師職氏名	小見まいこ			
	研究発表テーマ・職・氏名	①、②			
	参加者数	20人			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に					
研究調査	主要テーマ				
	調査の期日場所・参加者数				
図書購入	図書名冊数	図解知識ゼロからの現代漁業入門他　23冊			
研究成果刊行物出版	名称	令和元年度　高教研水産教育研究会			
	主な内容	研究成果報告			
	冊数	70冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　水産部会　令和２年度事業計画（案）

部長　椎谷　一幸

研究会・講習会等の開催	目的	水産・海洋教育の充実と発展を目指す			
	期日	11月27日（金）	（　　）	（　　）	（　　）
	場所	未定			
	研究会名称	令和２年度水産教育研究会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	水産海洋教育の充実 水産関連産業・教科指導の変化への対応について	「　　」	「　　」	「　　」
	講師職氏名	未定			
	研究発表テーマ・職・氏名	未定			
	参加者数	30名			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		未定			
研究調査	主要テーマ	未定			
	調査の期日 場所・参加者数				
図書購入	図書名 冊数	未定			
研究成果刊行物出版	名称	令和２年度水産教育研究			
	主な内容	研究成果報告			
	冊数	40冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　家庭科部会　令和元年度事業報告書

部長　　山本　久

研究会・講習会等の開催	目的	家庭科教育の充実と発展	
	期日	８月８日（木）	１１月２８日（木）
	場所	ミュゼ雪小町（上越市）	長岡大手高等学校　済美会館
	研究会名称	全県講習会	部会委員会
	研究会テーマ「講演テーマ」	１講習 「モンテッソーリ教育～私が一人でできるように手伝ってね～」 ２講義・演習 「高校家庭科で学ぶ消費者教育のキモ～考え行動する消費者の育成～」	報告・計画 令和元年度事業報告 令和２年度事業計画 さんフェア新潟大会報告 講習 「クレジットの基礎知識と利用上の留意点～キャッシュレス社会の歩き方～」
	講師職氏名	１上越カトリック天使幼稚園 教諭　長崎　八寿代　様 ２横浜国立大学教育学部 名誉教授　西村　隆男　様	一般社団法人 日本クレジット協会 消費者・広報部　富田　佳奈　様
	研究発表テーマ・職・氏名		
	参加者数	29名	58名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①　②　⑦	①　⑦
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日場所・参加者数		
図書購入	図書名 冊数		
研究成果刊行物出版	名称	家庭科研究第55号	
	主な内容	講習会・研究協議・会員の研究など	
	冊数	160冊	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　　家庭科部会　令和２年度事業計画（案）

部長　　山本　久

研究会・講習会等の開催	目的	家庭科教育の充実と発展	
	期日	８月４日（火）	１１月２６日（木）
	場所	新潟ふれ愛プラザ（新潟江南区）	長岡大手高等学校　済美会館
	研究会名称	全県講習会	部会委員会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	報告・計画 令和２年度事業報告 令和３年度事業計画 その他未定
	講師職氏名	未定	未定
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	未定
	参加者数	未定	未定
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		未定	未定
研究調査	主要テーマ		
	調査の期日 場所・参加者数		
図書購入	図書名 冊数		
研究成果刊行物出版	名称	家庭科研究第56号	
	主な内容	講習会・研究協議・会員の研究など	
	冊数	160冊	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　保健体育部会　令和元年度事業報告

研究会・講習会等の開催	目的	保健体育科教員及び養護教員の研修	
	期日	１０月２５日（金）	１０月２８日（月）
	場所	県立新潟東高等学校	じょいあす新潟会館
	研究会名称	保健体育部会全県研究会	全県養護教諭研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	１　授業におけるハラスメント等の対応について ２　新指導要領の改訂のポイントについて	生徒が生涯にわたって健康な生活を送るために必要な力を育成するための養護教諭の役割 「生きづらさを感じている子どもたち」
	講師職氏名	１　新潟大学教育学研究科教授　吉澤　克彦　様 ２　学校体育指導係　間　健太郎　様	オフィスいわむろ代表 医師　岩室　紳也　様
	研究発表テーマ・職・氏名	公開授業　「サッカー」 新潟東高等学校 教諭　五十嵐　公一	つながりに関する養護教諭の意識調査 （小・中学校部と共同研究） 養護教諭　渡部美恵子　ほか
	参加者数	１７名	８７名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		⑦②⑥	①③⑦
研究調査	主要テーマ	なし	
	調査の期日場所・参加者数	なし	
図書購入	図書名 冊数	なし	
研究成果 刊行物の出版	名称	研究集録　第５５集	
	主な内容	研究会、講演会の内容収録	
	冊数	０部・・・ＨＰに掲載	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　保健体育部会　令和２年度事業計画（案）

研究会・講習会等の開催	目的	保健体育科教員及び養護教員の研修	
	期日	未定	１０月２８日（水）
	場所	未定	じょいあす新潟会館
	研究会名称	全県研修会	全県養護教諭研修会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定	生徒が生涯にわたって健康な生活を送るために必要な力を育成するための養護教諭の役割 『ネット・ゲーム依存の実態と対応（仮）』
	講師職氏名	未定	独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター 院長　樋口　進　様
	研究発表 テーマ・職・氏名	未定	つながりに関する養護教諭の意識調査 （小・中学校部と共同研究） 養護教諭　渡部美恵子　ほか
	参加者数	５０名	９０名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に			
研究調査	主要テーマ	なし	
	調査の期日 場所・参加者数	なし	
購入図書	図書名 冊数	なし	
研究成果 刊行物の出版	名称	研究集録　第５６集	
	主な内容	研究会、講演会の内容収録	
	冊数	０部・・・ＨＰに掲載	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　生徒指導　部会　令和　元　年度事業報告書

部長　今西　博一

研究会・講習会等の開催	目的	生徒指導上の諸問題の把握と研鑽	
	期日	１０月２１日（月）	１１月２０日（水）
	場所	燕三条地場産業振興センター リサーチコア	ハードオフエコスタジアム 新潟
	研究会名称	上中越地区研究協議会	全県研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	生徒指導の課題と対策 「生徒を取り巻く環境への理解～心理学を通して」	生徒指導の課題と対策 「様々な課題を抱えている生徒の支援における専門機関との連携」
	講師職氏名	新潟青陵大学 碓井　真史　様	新潟県教育庁生徒指導課 スクールソーシャルワーカー 山岸直子・五十嵐礼　様
	研究発表 テーマ・職・氏名	研究協議 「各校事例・情報共有及び問題解決に向けた取り組み」 指導助言 新潟青陵大学 碓井　真史　様	研究協議 「交通安全指導について」 「特別支援と生徒指導について」 「SNS・いじめ・自殺予防について」 全体会 ・研究協議報告　・指導助言 新潟県教育庁生徒指導課支援相談班 指導主事　稲生　一徳　様
	参加者数	２８名	４０名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①②⑦	①②⑦
研究調査	主要テーマ	育てる生徒指導・・・教師は生徒とどう関わるべきか	
	調査の期日 場所・参加者数	全県委員会を３回実施　場所：県立巻高等学校 会議室 第１回（７月８日２２名）第２回（８月３０日２２名）第３回（１月２２日１８名）	
購入図書	図書名 冊数	なし	
研究成果刊行物出版	名称	生徒指導部会誌　第５２号	
	主な内容	研究内容・資料・部会活動報告	
	冊数	４００冊	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　生徒指導　部会　令和　2　年度事業計画（案）

部長　今西　博一

研究会・講習会等の開催	目的	生徒指導上の諸問題の把握と研鑽	
	期日	令和２年１０月２１日（水） 予　定	令和２年１１月１８日（水） 予　定
	場所	未　定	ハードオフエコスタジアム新潟
	研究会名称	上中越地区研究協議会	全県研究協議会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	生徒指導の課題と対策 「未　定」	生徒指導の課題と対策 「未　定」
	講師職氏名	未　定	未　定
	研究発表 テーマ・職・氏名	未　定	「学校現場における特別支援に関する具体的な取り組み」について（仮題）
	参加者数	約３０名	約４０名
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①②⑦	①②⑦
研究調査	主要テーマ	生徒の個性や特質を理解しながら育てる生徒指導	
	調査の期日 場所・参加者数	全県委員会を中心に３回会議を行う 場所：県立巻高等学校　参加予定数　２７名	
図書購入	図書名 冊数	なし	
研究成果刊行物出版	名称	生徒指導部会誌　第５３号	
	主な内容	研究内容・資料・部会活動報告	
	冊数	４００冊	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　図書館　部会　令和元年度事業報告書

部長　中川　誠一

研究会・講習会等の開催	目的	1生徒の実態を踏まえての読書指導あり方 2情報化社会に対応した図書館運営のあり方			
	期日	1月15日（水）			
	場所	生涯学習センター			
	研究会名称	総会・講演会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	「総合百科事典ポプラディア」の活用方法			
	講師職氏名	斎木小太郎様			
	研究発表テーマ・職・氏名	なし			
	参加者数	13名			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①			
研究調査	主要テーマ	図書館の利用状況に関するアンケート			
	調査の期日 場所・参加者数	1　県内高等学校図書館において適宜行う 2　講演会参加のメールにて調査依頼			
図書購入	図書名 冊数	なし			
研究成果刊行物出版	名称	『図書館部報』第６４号			
	主な内容	研究会・総会報告、研究会等参加報告、研究論文等			
	冊数	２００冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　図書館　部会　令和２年度事業計画（案）

部長　中川　誠一

研究会・講習会等の開催	目的	１生徒の実態を踏まえての読書指導あり方 ２情報化社会に対応した図書館運営のあり方			
	期日	８月上旬			
	場所	生涯学習センター			
	研究会名称	総会・講演会			
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未定			
	講師職氏名	未定			
	研究発表テーマ・職・氏名	未定			
	参加者数	未定			
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		①、②			
研究調査	主要テーマ	講演に関する事前・事後アンケート			
	調査の期日場所・参加者数	総会・講演会において持参・協議			
図書購入	図書名 冊数	未定			
研究成果刊行物出版	名称	『図書館部報』第６５号			
	主な内容	研究会・総会報告、研究会等参加報告、研究論文等			
	冊数	２００冊			

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　視聴覚部会　令和元年度事業報告書

部長　阿部 正一

研究会・講習会等の開催	目的	視聴覚に関わる諸活動を通して、教職員が、実践力を備えたメディアリテラシーを獲得することで、生徒の課題解決能力向上を促すための指導力を身につける。						
	期日	4月28日	4月29日	6月13日	8月16日 8月17日	11月10日	1月13日	3月20日（ウイルス対策の為中止）
	場所	新潟市 新潟明訓高等学校	長岡市 まちなかキャンパス長岡	長岡市 長岡リリックホール	新発田市 「月岡温泉風鈴屋」	新潟市 新潟明訓高等学校	長岡市 まちなかキャンパス長岡	新潟市 新潟明訓高等学校
	研究会名称	新潟・下越地区初心者講習会	上越・中越地区初心者講習会	NHK杯高校放送コンテスト 主催事業	総会(8/16) 研修会 (8/16・17)	QK杯校内放送コンテスト 共催事業	放送技術者冬期講習会	放送技術者春期講習会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	基礎的放送・視聴覚技術に関する指導方法の習得	基礎的放送・視聴覚技術に関する指導方法の習得	コンテストの評価方法	番組制作技術の視点について	コンテストの評価方法	北信越大会に向けた読みの実践的指導方法	NHK杯に向けた番組の実践的指導方法
	講師職氏名	高文連専門部役員	高文連専門部役員	NHK専門職ディレクター	松本深志高校林直哉様	NHK専門職アナウンサー	高文連専門部役員	高文連専門部役員
	研究発表テーマ・職・氏名							
	参加者数	9人	6人	19人	14人	22人	8人	0人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		②指導法 ⑦実習・講習	②指導法 ⑦実習・講習	①専門分野	②指導法 ③実習・講習	①専門分野	②指導法 ③実習・講習	②指導法 ③実習・講習
調査研究	主要テーマ	第41回校内放送技術者講座						
	調査の期日場所・参加者数	12月26日～27日　東京都千代田放送会館　参加者2名						
購入図書	図書名 冊数	第66回NHK杯全国高校放送コンテスト アナウンス・朗読部門決勝進出20人集　×　12セット						
研究成果刊行物出版	名称	「視聴覚教育研究第57号」						
	主な内容	実践研究報告 令和元年度のコンテスト結果と事業報告 視聴覚部会規約・高等学校教育研究会規約						
	冊数	100冊						

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研　視聴覚部会　令和２年度事業計画

部長　阿部 正一

研究会・講習会等の開催	目的	視聴覚に関わる諸活動を通して、教職員が、実践力を備えたメディアリテラシーを獲得することで、生徒の課題解決能力向上を促すための指導力を身につける。						
	期日	4月29日	4月29日	6月16日	8月16日 8月17日	11月8日	1月11日	3月21日
	場所	新潟市 新潟明訓高等学校	長岡市 まちなかキャンパス長岡	長岡市 長岡リリックホール	新発田市 「月岡温泉風鈴屋」	新潟市 新潟明訓高等学校	長岡市 まちなかキャンパス長岡	新潟市 新潟明訓高等学校
	研究会名称	新潟・下越地区初心者講習会	上越・中越地区初心者講習会	ＮＨＫ杯高校放送コンテスト 主催事業	総会(8/16) 研修会 (8/16･17)	ＱＫ杯校内放送コンテスト 共催事業	放送技術者冬期講習会	放送技術者春期講習会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	基礎的放送・視聴覚技術に関する指導方法の習得	基礎的放送・視聴覚技術に関する指導方法の習得	コンテストの評価方法	アナウンス・朗読部門の指導方法	コンテストの評価方法	北信越大会に向けた読みの実践的指導方法	ＮＨＫ杯に向けた番組の実践的指導方法
	講師職氏名	高文連専門部役員	高文連専門部役員	ＮＨＫ専門職 ディレクター	県外実力校顧問	ＮＨＫ専門職 アナウンサー	高文連専門部役員	高文連専門部役員
	研究発表テーマ・職・氏名							
	参加者数	１０人	８人	２０人	１５人	２０人	１０人	１５人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		②指導法 ⑦実習・講習	②指導法 ⑦実習・講習	①専門分野	②指導法 ③実習・講習	①専門分野	②指導法 ③実習・講習	②指導法 ③実習・講習
調査研究	主要テーマ	第４２回校内放送技術者講座						
	調査の期日 場所・参加者数	１２月下旬　東京都千代田放送会館　２名程度						
購入図書	図書名 冊数	第６７回NHK杯全国高校放送コンテスト アナウンス・朗読部門決勝進出２０人集　×　１２セット						
研究成果刊行物出版	名称	「視聴覚教育研究第５８号」						
	主な内容	実践研究報告 令和元年度のコンテスト結果と事業報告 視聴覚部会規約・高等学校教育研究会規約						
	冊数	１００冊						

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研定通部会　令和元年度事業報告書

部長　佐藤真佐人

研究会・講習会等の開催	目的	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進	
	期日	令和元年７月31日（水）	令和元年11月12日（火）
	場所	ホテルイタリア軒	開志学園高等学校
	研究会名称	令和元年度新潟県高等学校定時制・通信制教育総合研究会 新潟県高等学校通信制教育研究会	令和元年度新潟県高等学校教育研究会定通部会 各校情報交換会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進～情熱と使命感あふれる教育活動の創造～ 「生徒に伝えたい幸福になる方法ポジティブ心理学から」	県内定時制・通信制高等学校情報交換会
	講師職氏名	新潟清陵大学大学院 教授　碓井　真史	
	研究発表テーマ・職・氏名	①進路指導 新潟翠江高等学校　教諭　土田　紘子 ②特別支援教育 長岡明徳高等学校　教諭　高井　章男	① 定時制教務 ② 通信制教務 ③ 生徒指導 ④ 特別支援教育 ⑤ 進路指導
	参加者数	169人（高校教員等166人，県教委２人，講師１人）	73人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。主となるテーマを先頭に		③④②	①⑥
研究調査	主要テーマ	先進校視察（教育課程、生徒指導、特別支援教育など）	
	調査の期日場所・参加者数	令和元年11月21日（水）、22日（木）　参加者２名 視察校　東京都立八王子拓真高等学校、東京都立稔ヶ丘高等学校 東京都立新宿山吹高等学校	
図書購入	図書名 冊数		
研究成果刊行物出版	名称	実践集録57号	
	主な内容	上記定時制・通信制教育総合研究会報告	
	冊数	380冊	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

高教研定通部会　令和２年度事業計画（案）

部長　佐藤真佐人

研究会・講習会等の開催	目的	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制･通信制教育の推進	
	期日	令和２年７月29日(水)	令和２年11月18日(水)（予定）
	場所	ホテルイタリア軒	西新発田高等学校
	研究会名称	令和２年度新潟県高等学校定時制・通信制教育総合研究会新潟県高等学校通信制教育研究会	令和２年度新潟県高等学校教育研究会定通部会各校情報交換会
	研究会テーマ 「講演テーマ」	未来に向かって生徒の可能性を拓く定時制・通信制教育の推進 ～情熱と使命感あふれる教育活動の創造～ 「未定」	県内定時制・通信制高等学校情報交換会
	講師職氏名	未定	
	研究発表テーマ・職・氏名	①テーマ未定 堀之内高等学校教諭 ②テーマ未定 西新発田高等学校教諭	① 定時制教務 ② 通信制教務 ③ 生徒指導 ④ 特別支援教育 ⑤ 進路指導　（予定）
	参加者数	170人	60人
研修分野の分類 下記①～⑦から選択。複数選択可。 主となるテーマを先頭に		③④②	①⑥
研究調査	主要テーマ	先進校視察（教育課程、生徒指導、特別支援教育など）	
	調査の期日場所・参加者数	未定	
図書購入	図書名 冊数		
研究成果刊行物出版	名称	実践集録58号	
	主な内容	上記定時制・通信制教育総合研究会報告	
	冊数	380冊	

①専門分野、②指導法、③実践報告、④新教育課程、⑤見学会、⑥公開授業、⑦実習・講習・展示

令和元年度新潟県高等学校教育研究会理事会議事録

日　時　　令和元年５月27日（月）13：30～15：00
会　場　　県立新潟南高等学校　視聴覚教室
開　会　　桑原　勇重　（新潟南高等学校副校長）

１　会長挨拶　石井　一也　会長　（新潟南高等学校長）
Ⅰ　今年度の方針について
本日はお忙しいところ、ご参集頂きましてありがとうございます。新潟県高教研会長を務めます新潟南高校校長の石井と申します、よろしくお願い申し上げます。はじめに魅力ある高教研部会活動に関するお話をさせて頂きたいと思います。新学習指導要領の移行措置の動きだした所です。現行学習指導要領の趣旨を踏まえ、昨年度までに計画的に掲げて参りました、次の２点を会の方針として今年度の研究活動を進めて参りたいというふうに考えております。１点目は全ての生徒が共通に身につけるべき、資質能力の育成、共通性の確保。２点目は、多様な学習ニーズへのきめ細かな対応、多様化への対応。各部会におかれましては、引き続きこの方針の下、活動に当たって頂きたいと存じます。

今新しい大学入試制度への対応や新学習指導要領に沿った、教育課程の編成など大きな変化の中にあります。当研究会の担う役割は益々大きなものになると思います。これからの社会に求められる資質能力を意識しながら、より質の高い学びにつながるよう研究を進めて頂き、研究成果が確実に本県教育の推進につながるよう期待をしているところであります。今年度は改元となり、令和最初の理事会をする事となりますが、始めにお詫びを申し上げたいと思います。例年ですと５月１０日前後に理事会を開かせて頂いているのですが、各部会ではもう既に年度の計画が動き出しているこの時期に理事会がずれ込んでしまいました。また、本日の開催に向けたご案内も直前となってしまい、各部会の先生方には、本当にご迷惑をお掛けしたと言うふうに思っております。また、今年度も資料に載っておりますが会員が減少するという状況にあります。本来、県内高等学校教員の研修を支えて、教員の資質を高めるための取組であるはずの、この高教研活動が、場合によっては「やらされ感」であるとか、「負担感」という事にもしつながっているとしたら、これを解決する方策としたら、各部会の取組内容をより一層充実させ、得るものの多い活動、実り多い活動として、行く以外には無いと考えております。各部会におかれましては部長先生を中心に、より魅力ある部会作りに一層努めて頂き、高教研の活性化を図ることで、この状況をなんとかして頂きますようご協力をお願い申し上げます。年度途中における追加加入の呼びかけも、合わせてお願い申し上げます。

教育公務員に義務づけられているところの研修につきましては、官制研修から個人の研修に至るまで様々に展開されているところでありますが、高教研の活動が真に個々の教員

が求める教師力の向上につながり、各種研修を下からしっかり支えるものとなることで、会員数の増加にもつながっていくものと考えております。会の運営維持のために、その必要性を繰り返して、会費の負担に意義を感じてもらえるような、教育研究の実現に向けて、是非今後もご理解ご協力をお願いしたいと思います。限られたそれぞれの部会予算の中で、活動を改善していくことは簡単なことでは無いと承知しておりますが、何とかこの難局を乗り越えて行きたいと考えております。繰り返しになりますが、よろしくお願い致します。

昨年度のことで別途お願いしたいことがございます。部会会計処理の遅れが、複数の部会で発生しております。年度をまたいで会計が閉じなかったと言うことで、会計監査が五月にずれ込んでしまったという状況がございます。それでこの理事会が遅くなり、会報編集が間に合わなかったと言う状況であります。各部長先生方におかれましては、会計担当の先生方に個別にご指導頂きまして、今年度のような事態になる事が無いようご協力をお願いしたいと思います。お手元に会報がお届け出来ていないのは、すべてそのようなことがスタートにございます。その他tの業務進行においても、事務局が最後になりますが、高教研の活動が各学校の活性化につながり、高教県全体の活動を支えるものになるよう祈念致しまして、開会の挨拶とさせて頂きます。

議員定数83名。
出席26名（実人数20名）、委任状51名（実人数45名）合計実人数65名。
規約第14条により、本会の成立を確認。

2　議長選出　慣例により、石井　一也　会長を選出

3　議事
①平成30年度事業報告　　池田　匡　幹事（新潟南高等学校教頭）

理事会資料2ページ参照。
各部会ともそれぞれの目標に向けて事業が行われた。
各部会の活動目的は、ページ上段に示したとおりである。また、ページ下段に見られるとおり平成30年度の各部会の特徴として、前年と比べ新教育課程に関する研究が増加し、見学会が、前年度0件だったものが13件となり増加しました。具体的な各部会の取組内容については後日お手元に届けられる高教研年報をご覧いただきたい。

－質問・意見なし。①平成30年度事業報告について承認－

②平成30年度の活動から　　池田　匡　幹事　（新潟南高等学校教頭）
理事会資料3ページ参照。

1．研究会については各部会とも活発な取り組みがなされている(詳細は年報参照)

2．教育研究助成に関して

一般財団法人新潟県教職員厚生財団様、公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部様から合計65万円の助成を受け、運営に役立てている。

3．会の運営について

（1）高教研ホームページについて

年々充実してきており、情報発信や会員間の連絡にも役立っている。各部会には一層の充実をお願いしたい。

（2）経費削減について

事務局の運営経費を抑え、その分を各部会の活動費へ充てられるよう努力を続けている。郵送するものと、電子メールやホームページからダウンロードするものなどを適切に使い分け、経費節減を進めていく。ただ本年度に関しては、後ほど予算案のところで提案するが、臨時かつ緊急的な補助に支出できるよう予備費を確保したいため、御理解いただきたい。

（3）ご報告

4．高教研の活性化について

各部会研究会への参加者数が、平成29年度の1,939名に対して平成30年度は1,861名と減少している。各部会の部長先生方にご協力頂き、加入のお声がけを頂きたい。また、高教研の取り組みが一層魅力的なものになるよう、各部会において委員の校長先生方や教頭先生方から、今後も引き続きご指導・ご助言いただきたい。

－質問・意見なし。②平成30年度の活動からについて　承認－

③平成30年度決算報告　　田澤　弘美　幹事　　（新潟南高等学校）

理事会資料4,5ページ「平成30年度　収支決算書」参照。

＜収入の部について＞

30年度は、昨年度5月加入締め切り時点の会員数1,875人で予算を組んだところ、その後に追加加入があり、最終会員数は1,861人となり、会費の総額は28,000円増となった。助成金は例年通り、県教職員厚生財団様と教育公務員弘済会様より、合わせて650,000円をいただいた。また外部団体から各部会への助成金205,000円を加え、合計で855,000円の助成金となる。29年度からの繰越金などを合わせて、収入の合計金額は7,839,050円となった。

＜支出の部について＞

較増減の欄ですが，ご覧の通り，残金の出た部会には，年度末に事務局の通帳へ返金をしていただきました。この金額は各部会へ積立に回るものとなります。5ページⅡ費目別の欄

の「1. 研究大会費」における「謝金・旅費」の支出が増えた28年度から実施しております「各部会の残金積み立て方式」により、一部の部会では、普段は呼べないような講師を呼び講演会を実施するなど、活性化策の成果も感じます。その結果、旅費が，前年度に比べまして少し支出が多くなりました。また，多くの部会で賃金・資料費などを抑えてくださり，経費を切り詰めて下さいましたことがうかがえました。6 の本部関係費ですが，前年度同様，経費節減に努めました。封筒などの消耗品や事務用品，振込用紙料など過去のもので足りておりましたので，出費を抑えることができましたが，不足した物の補充の必要も出てきております。また令和と元号も代わり、様々な書類の印刷も必要となってきますので，今年度は事務費が若干増えると予想されます。

また、刊行費の決算が35,424円となっておりますが、30年度は29年度の原稿が29年度内に集まらず昨年30年度に29年度、30年度の２年間分の年報印刷でこのようになっております。なかなか厳しい日程ではあると思いますが、期日を守っていただくようご配慮・ご協力をお願いいたします。

収入決算額より支出決算額を引きまして 3,754,725 円が次年度繰越となりました。これは、各部会次年度積立金を含んだ繰越金となりますので、事務局関係費に使える繰越金は118,736円ほどになります。

平成30年度は，会員の皆様のご協力のおかげでこのご報告をすることが出来ました。ありがとうございました。以上で決算報告を終わります。

５月10日（金）新潟南高等学校応接室で、新潟商業高校　星　達哉　副校長　、新潟東高校　佐藤　浩　教頭と新潟市立明鏡高校　中川秀太　教頭、３名の会計監査委員で会計監査を行って頂きました。

その結果、精査して頂いたところ相違はなく、予算の執行状況も適正と認めて頂きましたので報告いたします。

－質問・意見なし。③平成30年度の決算報告について　承認－

④新潟県高等学校教育研究会規約の一部改正について

池田　匡　幹事　（新潟南高等学校教頭）

理事会資料７ページ参照。

高教研規約の第２０号では各役員の定数を定めておりますが、その中で「各部会の副部長は各４名以内」としております。しかし、現実として４名以上の副部長を選任している部会が複数ございます。各部会の特性を活かした多様な研究活動を支えるため、また、副部長が

複数されていることで経費がかかることがないため、副部長を『４名以内』から『４名程度』への変更を提案致します。

－質問・意見なし。④新潟県高等学校教育研究会規約の一部改正について　承認－

⑤令和元年度役員の交替・補充について　　高山　誠　幹事　　（新潟南高等学校）

理事会資料８ページ「令和元年度　高等学校教育研究会役員（案）」参照。
今年度は役員改選の年です。各部会部長から推薦された役員案です。なお、規約第23条により重任を妨げるものではありません。

－質問・意見なし。⑥令和元年度役員の交替・補充について　承認－

⑥令和元年度事業計画案について　　池田　匡　幹事　（新潟南高等学校教頭）
理事会資料９ページ参照。
詳細は高教研ホームページ「年報」に掲載する。

－質問・意見なし。⑦令和元年度事業計画案について　承認－

⑦令和元年度予算案について　　井上　幸一郎　幹事　（新潟南高等学校）
理事会資料10ページ参照。

５月17日現在の実会員数は1,759人で、昨年度より102人少なくなっております。

＜収入について＞
前期繰越金は、各部会の積立金を除いた実質的な会計上の残金で、11万8,736円でした。次に、会費は351万8,000円で、H30年度より20万4,000円減です。次に、助成金等が85万5,000円で、内訳は、県教職員厚生財団から40万円、県教育公務員弘済会から25万円、各部会への外部団体からの助成が20万5,000円です。なお、県教育公務員弘済会からは、H30年度と同様に５万円増の25万円となっております。雑収入は、利息として23円を計上しております。各部会積立は363万5,989円で、H30年度より50万4,939円増です。以上、収入の合計は812万7,748円で、H30年度より31万6,704円増です。

＜支出の部について＞
各部会への予算配分基準の調整額について、令和元年度は、調整額を-130円（マイナス

130円）で予算案を作成させていただきました。H30年度は-110円でしたが、その額では事務局関係費が十分確保できません。支出の部の下から5行目の事務局関係費のうちの事務費をH30年度並みに確保するため、-130円とさせていただきました。これにより、各部会への配当の合計（a）が409万4,000円となります。各部会の積立て（b）が363万5,989円、外部団体補助等（c）が20万5,000円で、部会費としての合計は　793万4,989円となり、収入812万7,748円との差額を、事務局関係費として9万2,759円、予備費として10万円計上させていただきました。以上、支出の部の合計が812万7,748円となります

＜予備費＞

予備費は10万円としておりますが、先ほど支出の部で説明したとおり、各部会への配分額を削って予備費を捻出する形となっておりますので、申請は臨時的、緊急的なものに限定させていただきます。臨時的・緊急的とは、支出を予定していなかった費用で、支出した場合に部会の予算額を超過してしまう場合に、予備費で補填することを指します。結果的に予算に残額が出て積立に回すようなことは想定しておりません。ご理解をお願い致します。

－質問・意見なし。⑦平成30年度予算案について　承認－

⑧その他

質問・意見なし。

4　事務連絡

理事会資料11ページ参照。

5　閉会挨拶

令和元年度の活動から

1　研究会等

今年度も各部会の精力的な努力によって各種の研究会（講習会・見学会・展示会等）が開催されました。詳細については一覧をご覧ください。

2　研究助成等に関して

近年は会員数の減少に歯止めがかからない傾向がある。それに伴い会費収入も先細りの状況で、予算面で厳しい状況が続いています。このような状況の中で財団法人新潟県教職員厚生財団、及び公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部からは、多額のご支援をいただき、本会の運営にあたっています。紙面を借りて改めて感謝申し上げます。

3　会の運営について

(1)高教研ホームページについて

平成26年８月に開設した高教研ホームページですが、各部会から積極的に御活用いただけるよう取り組んでおりましたが、十分な対応を行う事ができませんでした。次年度以降は改善策を検討し、当会ＨＰの運営改善を考えております。また、郵送コスト圧縮のために、メールとホームページを積極的に活用して経費を節減しております。各種様式をホームページからダウンロード可能とする事で、各部会等との連携強化と運営の効率化を図っています。今後も有効に活用くださるようお願いします。

新潟県高等学校教育研究会ホームページ　http://www.kokyoken.nein.ed.jp/

(2)会員募集方法について

加入申込の方法について、平成 29 年度から電子メールによる申込に変更しています。校務のデジタル化が進む昨今、加入希望者の名簿をデジタルファイル(MS エクセル)で作成することにより、各所属の委員(副校長・教頭)並びに各部会幹事の業務を、一層正確に、効率的に行えるようになりました。年度初のご多用のなか、各校において、当会への加入に係るお声がけや加入申込み業務を行って頂き感謝申し上げます。

(3)会計取扱要領について

会計の更なる適正な執行及び透明性確保の観点から、「部会会計取扱要領」を定め、平成29年度から施行しています。また、所得税納入に係る規約も一部見直しをしました。

4　高教研の活性化について

高教研活性化の一つの在り方として、平成28年度から取り入れられた「積み立て方式」も、定着し、各部長の意図に沿って着実に積み立てが進んでいます。一部の部会では、大胆な予算配分により講演会を実施するなど、活性化策の成果が現れています。

各部会におかれましては、特色ある研修会等を年報や高教研ホームページ等も活用ながら広く周知いただくとともに、未加入の先生方、特に新採用の先生方へ積極的にお声がけをいただきますようお願いします。

（文責・幹事：新潟南高等学校　教頭　池田　匡）

令和元年度　収支決算書

収入の部

区　分	予　算　額(a)	決　算　額(b)	比較増減(b-a)	摘　要
会　費	3,518,000	3,614,000	96,000	年額一人2,000円×　1793人（予算作成時までの会員数1759人＋48人増）
助成金	855,000	855,000	0	県教職員厚生財団(40万)・教育公務員弘済会(25万)・外部団体から部会へ補助（数学・家庭・視聴覚・定通）
雑収入	23	25	2	預金利息
前期繰越金	118,736	118,736	0	事務局関係費・予備費繰越
繰越金（積立含む）	3,635,989	3,635,989	0	
合　計	8,127,748	8,223,750	96,002	

支出の部

Ⅰ部会別

区　分	予算額(a)（積立金を含む）	決算額(b)	比較増減(b-a) 次年度積立金	摘要 研究大会	研究調査	研究図書	研究成果刊行	その他	備考
1．国　語	312,625	220,492	△ 92,133	18,752	0	0	201,740	0	
2．地歴公民	409,582	292,047	△ 117,535	196,567	0	0	95,480	0	
3．数　学	978,039	251,068	△ 726,971	220,593	0	0	30,475	0	
4．理　科	425,205	267,110	△ 158,095	140,610	0	0	126,500	0	
5．芸　術	332,462	131,165	△ 201,297	88,065	43,100	0	0	0	
6．英　語	1,442,680	224,816	△ 1,217,864	178,960	2,088	0	23,108	20,660	
7．農　業	328,699	238,092	△ 90,607	108,892	0	0	129,200	0	
8．工　業	406,224	242,695	△ 163,529	152,695	0	0	90,000	0	
9．商　業	200,000	200,000	0	70,750	0	19,250	110,000	0	
10．水　産	235,358	183,328	△ 52,030	97,266	0	79,486	6,576	0	
11．家庭科	441,948	222,285	△ 219,663	123,285	0	0	99,000	0	
12．保健体育	528,892	150,878	△ 378,014	150,878	0	0	0	0	
13．生徒指導	506,031	248,777	△ 257,254	141,475	8,302	0	99,000	0	
14．図書館	484,073	163,774	△ 320,299	77,974	0	0	85,800	0	
15．視聴覚	300,981	295,481	△ 5,500	79,635	133,076	21,800	55,880	5,090	
16．定　通	602,190	345,984	△ 256,206	170,269	64,945	0	110,770	0	
本部関係	92,759	28,232	△ 64,527						
予備費	100,000	0	△ 100,000						
合　計	8,127,748	3,706,224	△ 4,421,524	2,016,666	251,511	120,536	1,263,529	25,750	

4,517,526

次期繰越金　260,529

II 費目別

区分	予算額(a)	決算額(b)	比較増減(b-a)	摘要
1．研究大会費	3,352,042	2,016,666	△ 1,335,376	
謝金	1,050,217	777,147	△ 273,070	
旅費	644,900	272,432	△ 372,468	
使用料及び貸借料	513,570	370,563	△ 143,007	会場使用料・設備使用料・借りあげバス等
資料費	366,448	112,744	△ 253,704	
通信運搬費	461,073	315,991	△ 145,082	切手，送料，手数料等
賃金	80,000	55,590	△ 24,410	テープ起こし
会議費	235,834	112,199	△ 123,635	茶，茶菓子，講師弁当等
2．研究調査費	382,381	251,511	△ 130,870	
資料費	140,381	98,076	△ 42,305	
通信運搬費	160,000	101,053	△ 58,947	
会議費	82,000	52,382	△ 29,618	
3．研究図書購入費	186,600	120,536	△ 66,064	
4．研究成果刊行費	1,727,960	1,263,529	△ 464,431	
5．その他	2,286,006	25,750	△ 2,260,256	
6．本部関係費	92,759	28,232	△ 64,527	
事務費	62,759	9,422	△ 53,337	通信費
会議費	10,000	0	△ 10,000	
刊行費	20,000	18,810	△ 1,190	コピー用紙，製本代
7．予備費	100,000	0	△ 100,000	
合計	8,127,748	3,706,224	△ 4,421,524	

収入決算額	8,223,750
支出決算額	3,706,224
次年度繰り越し	4,517,526（各部会次年度積立金含む）

令和元年度　高等学校教育研究会役員

会　長		石井　一也　新潟南								
副会長		上原　洋一　新潟中央				中戸　義文　新発田				
		宮田　佳則　長　岡				長谷川　雅一　高　田				
		遠間　春彦　佐　渡								
顧　問		市川　亮　新潟								
部会										
No.	部会名	部長	副部長						部会幹事	会計監査委員
1	国語	富樫　信浩 新潟東	吉井　裕也 村上中等	北岸　信治 村上桜ケ丘	小竹　聖一 吉田				柳澤　路子 新潟東	星　達哉 新潟商業
2	地歴公民	遠間　春彦 佐渡	君　伸一郎 燕中等	佐藤　一彦 国際情報	山田　喜昭 柏崎常盤	早川　勝志 久比岐			小林　真也 正徳館	中川　秀太 明　鏡
3	数学	吉田　保夫 見附	渡邊　治夫 三条東	伊藤　本恵 小千谷	加藤　幹男 柏崎工業	内田　卓利 松代	小林　英明 津南中等	吉川　保 高田南城	渡辺　康一 三条東	佐藤　浩 新潟東
4	理科	加藤　徹男 十日町	田邊　薫 巻総合	桑原　勇重 新潟南	岡田　淳 新潟西	尾上　博司 阿賀黎明			朝井　祐子 十日町	
5	芸術	大田　英則 新潟西	小堺　さとみ 川西高等特別支援	山下　幸治 新発田商業	小熊　直子 新発田農業				(音)土田　利枝子(三条東) (美)中條　由美(上越総合技術) (書)金子　達雄(長岡農業)	
6	英語	萩野　俊哉 加茂	高松　利治 荒川	白藤　恵一 長岡向陵	渡邊　優子 燕中等	石積　希 柏崎翔洋中等	江川　真 高田		荒木　美恵子 新潟	事務局幹事
7	農業	熊谷　秀則 加茂農林	佐々木　雅伸 新発田農業	中村　満夫 長岡農業	竹内　正宏 高田農業	椎谷　一幸 海洋	村山　和彦 柏崎総合		高橋　正和 加茂農林	池田　匡 新潟南
8	工業	太田　洋一 長岡工業	山川　徹也 新津工業	木村　栄一 新潟県央工業	清水　源一 上越総合技術				鶴巻　勝弘 長岡工業	小林　伸輔 新潟
9	商業	仲野　孝 新潟商業	笠井　富夫 新発田商業	久保　晃 長岡商業	大島　博文 高田商業				釜田　浩文 新潟商業	亀貝　麻莉 新潟中央
10	水産	椎谷　一幸 海洋	熊木　秀徳 海洋						井上　悠太 海洋	釜田　浩文 新潟商業
11	家庭	山本　久 長岡大手	田邊　薫 巻総合	久保　晃 長岡商業	山田　喜昭 柏崎常盤	阿部　正一 佐渡総合			村田　しのぶ 長岡大手	渡邊　尚紀 新潟南
12	保健体育	熊倉　肇 柏崎	上杉　一浩 新潟北	今西　博一 巻	小畑　智嗣 阿賀野	入澤　享 十日町総合	森川　幸彦 出雲崎		山田　泰幸 柏崎	高山　誠 新潟南
13	生徒指導	今西　博一 巻	竹内　正宏 高田農業	内山　喜博 栃尾	須藤　浩 村松	小林　皇司 羽茂			高須　俊克 巻	井上　幸一郎 新潟南
14	図書館	中川　誠一 塩沢商工	遠間　春彦 佐渡	笠井　富夫 新発田商業	榊　厚志 糸魚川白嶺				坂井　寿光 塩沢商工	田澤　弘美 新潟南
15	視聴覚	阿部　正一 佐渡総合	長田　裕 白根	横堀　真弓 五泉					平倉　政弘 長岡工業	佐藤　博美 新潟南
16	定通	佐藤　真佐人 新潟翠江	早川　智 荒川	石和田　弘 長岡明徳	吉川　保 高田南城	遠間　春彦 佐渡	神田　正俊 開志学園		石澤　聡 新潟翠江	細山　昌嗣 新潟南

敬称略

□は役員交代及び新規役員

委　員

地区	学番	学校名	委員氏名	人数
新潟	1	新潟	夏見康彦	52
	2	新潟中央	佐野由美子	37
	3	新潟南	池田匡	23
	4	新潟江南	渡邉孝弘	12
	5	新潟西	目黒卓行	11
	6	新潟東	佐藤浩	11
	7	新潟北	増田てつ志	7
	8	新潟工業	太田修	45
	9	新潟商業	佐藤直人	31
	10	新潟向陽	松縄恒彦	14
	11	新潟翠江（定）	石澤聡	0
	11	新潟翠江（通）	浦部頼之	25
	12	巻	島津優子	18
	13	巻総合	梅田均	19
	14	豊栄	越昌宏	10
	15	新津	坂元淳子	18
	16	新津工業	藤澤満	15
	17	新津南	吉田昌生	9
	18	白根	小竹博昭	6
	市1	万代	灰野仁	20
	市2	明鏡	中川秀太	20
	市中等1	高志中等	武田統理	5
	特1	新潟盲	嶋見真理子	0
	特2	新潟聾	佐々木裕一	0
	特15	東新潟特別支援	廣川豊士	0
	私1	新潟明訓	青山洋一	66
	私2	北越	舩木和久	31
	私3	新潟青陵	永井孝史	12
	私6	新潟第一	松尾明	68
	私7	東京学館新潟	飯田昭男	56
	私8	日本文理	星野透	11
	私17	開志学園	神田正俊	4
五泉・新発田	19	五泉	德永和教	7
	20	村松	萱森茂樹	2
	21	阿賀黎明	尾上博司	7
	22	新発田	西川昌宏	20
	23	西新発田	河野理彦	6
	24	新発田南	桑原文博	29
	24	豊浦分校	石山崇	1
	25	新発田農業	小熊直子	29
	26	新発田商業	山下幸治	7
	27	村上	鈴木正之	15
	28	村上桜ヶ丘	竹園克裕	14
	29	荒川	高松利治	10
	30	中条	遠山千勇	0
	31	阿賀野	宮澤雅樹	5
	特7	村上特別支援	新保英穂	1
	私12	新発田中央	上山裕二	10
	私13	開志国際	冨樫英樹	0
	中等1	村上中等	清水哲	12

地区	学番	学校名	委員氏名	人数
長岡	32	長岡	藤田純子	21
	33	長岡大手	川合克彦	24
	34	長岡向陵	白藤恵一	11
	35	長岡明徳	射場政人	10
	36	長岡農業	山口活水	19
	37	長岡工業	住吉宏	17
	38	長岡商業	斎藤直人	12
	39	正徳館	横尾則幸	6
	40	栃尾	鈴木信行	12
	41	見附	羽豆拓夫	8
	特3	長岡聾	齋藤まゆみ	6
	私9	帝京長岡	小熊牧久	9
	私10	中越	竹内拓	13
	私19	長岡英智	岩下隆志	13
三条	42	三条	小林忠輝	14
	43	三条東	瀧澤博信	10
	44	新潟県央工業	五十嵐雅実	25
	45	三条商業	渡辺昭彦	9
	46	吉田	丸山綾子	8
	47	分水	佐藤綱雄	6
	48	加茂	武藤俊昭	9
	49	加茂農林	渡邉幸晴	44
	中等3	燕中等	渡邉優子	20
	私11	加茂暁星	山本泰裕	14
	特20	吉田特別支援	嵩岡美雪	1
魚沼	50	小千谷	諸橋孝二	13
	51	小千谷西	大野荘衛	13
	52	堀之内	坂口和成	19
	53	小出	中原丈二	9
	54	国際情報	田邉康彦	23
	55	六日町	佐藤直之	15
	56	八海	五十嵐直樹	0
	57	塩沢商工	加藤伸泰	15
	58	十日町	川上豪	25
	58	松之山分校	松原直樹	1
	59	十日町総合	真島德衛	19
	60	松代	池上宗継	7
	中等4	津南中等	櫻井武史	16
	特6	川西特別支援	小堺さとみ	1

地区	学番	学校名	委員氏名	人数
柏崎	61	柏崎	田中健	19
	62	柏崎常盤	内山崇	11
	63	柏崎総合	高橋周之	19
	64	柏崎工業	小林裕貴	16
	65	出雲崎	原口央	11
	私14	新潟産大付属	佐藤勲	7
	中等2	柏崎翔洋中等	石積希	7
上越	66	高田	中田匠	27
	66	高田安塚分校	南方伸之	0
	67	高田北城	小林靖明	21
	68	高田南城（定）	藤岡英之	9
	68	高田南城（通）	村山庄吾	0
	69	高田農業	阿部愼	33
	70	上越総合技術	富田紀男	32
	71	高田商業	川上史人	13
	72	久比岐	鹿俣譲	9
	73	有恒	松井武文	5
	74	新井	平原孝之	0
	75	糸魚川	保坂哲	10
	76	糸魚川白嶺	増川義行	18
	77	海洋	熊木秀德	21
	中等5	直江津中等	楫貴志	13
	私15	上越	山田雅晴	8
	私16	関根学園	松嶋幸則	11
佐渡	78	佐渡	桐原宏史	21
	78	相川分校	瀧澤琢也	5
	79	羽茂	松丸正宏	9
	80	佐渡総合	近藤美津子	18
	中等6	佐渡中等	今井圭	12
行政		県立教育センター	千葉知樹	18
		高等学校教育課	外山徹宏	21
		文化行政課	祝政弘	0
		保健体育課	間健太郎	5
		合計	計	1777

部会幹事および部会員数

No.	部会名	部会幹事		会員数	No.	部会名	部会幹事		会員数
1	国語	柳澤 路子	新潟東	170	8	工業	鶴巻 勝弘	長岡工業	155
2	地歴公民	小林 真也	正徳館	158	9	商業	釜田 浩文	新潟商業	83
3	数学	渡辺 康一	三条東	241	10	水産	井上 悠太	海洋	64
4	理科	朝井 祐子	十日町	213	11	家庭	村田 しのぶ	長岡大手	125
5	芸術	土田 利枝子	三条東	69	12	保健体育	山田 泰幸	柏崎	101
		中條 由美	上越総合技術		13	生徒指導	高須 俊克	巻	208
		金子 達雄	長岡農業		14	図書館	坂井 寿光	塩沢商工	54
6	英語	荒木 美恵子	新潟	285	15	視聴覚	平倉 政弘	長岡工業	32
7	農業	髙橋 正和	加茂農林	148	16	定通	石澤 聡	新潟翠江	168

事務局幹事

池田 匡（新潟南）　小林 伸輔（新潟）　亀貝 麻莉（新潟中央）
渡邉 尚紀（新潟南）　釜田 浩文（新潟商業）　高山 誠（新潟南）
井上 幸一郎（新潟南）　田澤 弘美（新潟南）　佐藤 博美（新潟南）
細山 昌嗣（新潟南）

新潟県高等学校教育研究会規約

第１章　総　　則

第 １条　この会は、新潟県高等学校教育研究会といい、事務局を会長在任校におく。

第 ２条　この会は、新潟県の高等学校教育を振興発展させることを目的とする。

第 ３条　この会は、前条の目的を達成するために、下記の事業を行う。

１．高等学校教育に関する調査研究

２．研究協議会・講習会・講演会・展覧会等の開催、研究誌・機関紙の発行

３．会員の研究に対する援助

４．その他この会の目的達成に必要な事項

第２章　組　　織

第 ４条　この会は、新潟県にある高等学校の教職員およびこれに準ずるもので組織し、次の部会をおく。

１．国語部会	２．地理歴史・公民部会	３．数学部会
４．理科部会	５．芸術部会	６．英語部会
７．農業部会	８．工業部会	９．商業部会
10．水産部会	11．家庭科部会	12．保健体育部会
13．生徒指導部会	14．図書館部会	15．視聴覚部会
16．定通部会		

第３章　機　　関

第 ５条　この会は、次の機関をおく。

１．委員会　　２．理事会　　３．部長会　　４．部会委員会

第 ６条　委員会は、この会の決定機関であって、次のことを決める。

１．規約の決定並びに改正に関すること。

２．事業計画に関すること。

３．予算の決定、決算の承認に関すること。

4．財産および基金の処分に関すること。
5．役員の決定に関すること。
6．他団体への加入脱退に関すること。
7．この会の解散に関すること。
8．その他必要な事項に関すること。

第 7条　委員会は、委員で構成し、毎年開催する。臨時委員会は、理事会が必要と認めたとき、および半数以上の委員から要求があったとき、会長が招集する。

第 8条　委員会の議長は、そのつど構成員の中から選出する。

第 9条　理事会は、この会の執行機関であって、次の任務権限を持つ。
1．委員会から委任された事項の審議執行に関すること。
2．委員会に提出する議案に関すること。
3．緊急事項の処理に関すること。ただし、次の委員会に承認を得なければならない。

第10条　理事会は、理事で構成する。理事には、会長・副会長・各部会の部長・副部長および委員会で必要と認めた若干名がなる。

第11条　理事会は必要により会長が招集する。

第12条　部長会は、連絡機関であって、理事会と各部会および部会相互間の連絡にあたる。

第13条　委員会および部長会は、委任状を持参した代理人を認める。理事の代理は認めない。

第14条　委員会・理事会・部長会の会議は、構成員の２分の１以上の出席で成立し、多数で決する。可否同数のときは、議長が決める。

第15条　部会委員会は、部長・副部長・部会幹事および校内部会代表をもって構成する。

第16条　部会委員会は次の任務権限をもつ。
1．専門的事項について調査研究する。
2．専門的事項について委員会に提案する。
3．専門的事項についての業務を執行する。

第17条　部長委員会は、必要に応じ、会長に連絡して、部長が招集する。

第18条　部会は、必要により、学科または科目別あるいは地区別に分会を設けることができる。

第19条　部会の細則は、各部会ごとに作成して会長に届け、委員会の承認を得るものとする。

第４章　役　　員

第20条　この会には、次の役員をおく。

1．会長	1名	2．副会長	5名
3．部長	各1名	4．副部長	各4名程度
5．理事	若干名	6．委員	各校1名
7．会計監査委員	3名	8．幹事	若干名

9．部会幹事　　各１名　10．校内部会代表　　各校内の部会各１名
11．顧問

第21条　役員の任務権限は、次の通りである。
1．会長は、この会を代表し、会務執行の責任を負う。
2．副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときはその任を行う。
3．部長は、その部会を代表し、部会の業務を統理する。
4．副部長は、部長を補佐し、部長事故あるときはその任を行い、各地区別部会との連絡にあたる。
5．理事は第９条により会務を執行する。ただし理事は委員を兼ねることが出来ない。
6．委員は、各校内の意見を代表し、第６条によりその任を遂行する。
7．会計監査委員は、会計を監査し、委員会に報告する。
8．幹事は、この会の事務を処理する。
9．部会幹事は、各部会の事務を処理する。
10．校内部会代表は、各校内部会の事務を処理する。
11．顧問は、会長の諮問に応ずる。

第22条　役員の選出法は、次の通りとする。
1．会長・副会長・部長・副部長は、委員会で地区を考慮して会員の中から選挙する。
2．その他の理事は、必要により委員会で選挙する。
3．委員は、各学校から１名選挙する。
4．会計監査委員は、委員会で互選する。
5．幹事は、委員会の承認を経て会長が委嘱する。
6．部会幹事は、各部会の推薦により、会長が委嘱する。
7．校内部会代表は、各校内部会で互選する。
8．顧問は、委員会の推薦を経て会長が委嘱する。

第23条　役員の任期は、２年とし、次期改選まではその任を行い、重任してもよい。
欠員の補充で就任した者の任期は、前任者の残りの期間とする。

第５章　会　　計

第24条　この会の経費は、会費・補助金・寄付金等による。ただし、寄付金および寄付物件の受理は、委員会の承認を要する。
会費は、毎年５月１日までに各学校ごとに委員がまとめ、部会別会員名簿をそえて事務局に送付するものとする。

第25条　この会の会計年度は、毎年４月１日に始まり翌年３月31日に終わる。

第６章　雑　　則

第 26 条　この会に入会しようとするときは、所属部会を明記し、各学校ごとにまとめて、会長に通告する。

第 27 条　この会の規約を実施するに必要な規定は、別に定める。

第７章　附　　則

第 28 条　この規約は昭和 23 年 10 月 15 日から実施する。

２．昭和 61 年６月　９日改正施行する。

３．平成　２年６月　８日改正施行する。

４．平成　７年５月 31 日改正施行する。

５．平成 23 年６月 17 日改正施行する。

６．平成 24 年６月 22 日改正施行する。

７．令和元年５月 27 日改正施行する。

事務局日誌抄

月・日	
４・　１	平成３１年度高教研役員交代・補充についての依頼発送
４・　１	平成３１年度高教研「会員募集文書」などの袋詰め作業および発送。
４・　１	平成３１年度高教研部会会計の取扱要領についての通知発送
４・１０	高教研会計監査委員の派遣依頼発送
４・１０	高教研幹事の派遣依頼発送（校外幹事３名宛）
５・１０	会計監査(新潟南高校　応接室)
４・１２	幹事会(新潟南高校　応接室)〈理事会の準備・運営について〉
４・２５	予算作成作業着手
５・２２	高教研理事会の開催についての依頼・案内発送
５・２２	高教研部会幹事へ派遣依頼発送
５・２７	理事会(新潟南高校　視聴覚教室)〈本誌「理事会記録」参照〉
５・３０	高教研委員会文書審議の依頼発送（各委員宛）
６・２１	公益財団法人　日本教育公務員弘済会　新潟支部支部長へ平成２９年度事業への助成について依頼
５・２８	新潟県教職員厚生財団より４００，０００円助成
６・１７	部会幹事連絡会（新潟南高校　視聴覚教室）〈部会経理等について〉
７・１８	新潟県教育公務員弘済会より２５０，０００円助成
６・２０	委員会文書審議の結果発送
１０・１８	新潟県教職員厚生財団理事長へ平成３１年度事業への助成について依頼
１０・１８	一般財団法人新潟県教職員厚生財団へ教育・文化活動団体助成事業完了報告書を提出
１２・２５	各部会幹事に令和元年度末「事務処理関係文書」電子メールにて発送
２・２１	公益財団法人　日本教育公務員弘済会　新潟支部支部長へ事業報告書を提出
２・２４	各部会より事業報告・事業計画(案)、決算報告書、高教研年報の原稿などの到着 『高教研年報』第５９号の編集作業に着手

（文責　県立新潟南高等学校　教頭　池田　匡）

編集後記

令和元年の高教研の活動をまとめた「高教研年報第 59 号」をお届けいたします。

文部科学省は、Society5.0 に向けた教師の資質能力の向上を求めてます。現状の課題として「基礎的な学力を確実にさせながら、他者と協働しつつ自ら考え抜く自立した学びが不十分である。」と分析し、学びの在り方の改革を求めています。日本の将来を担う人材に対して、「共通して求められる力」として文章や情報を正確に読み解き対話する力」、「科学的に思考・吟味し活用する力」、「価値を見つけ出す感性と力、好奇心・探究力」としており、「新たな社会を牽引する人材」として、「技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材」、「技術革新と社会課題をつなげ、プラットフォームを創造する人材」、「様々な分野において AI やデータの力を最大限活用し展開できる人材」等の育成を我々に求めています。

高教研各部会では、各部会の特質を活かしながら、研究や調査等を行ったり、各種研修会、講演会等を催したりしながら、校種や世代を越えて教員同士が互いに高め会える機会となっていることがこの冊子から伺える事と思います。高教研各部会の取組が益々充実すると共に、新潟県の高校教育の更なる充実と子どもたちの希望あふれる未来につながる取組となる事を願い編集後記とさせて頂きます。

この年報を手にした先生方におかれましては、自身の取組に加え、この高教研各部会の取組を一人でも多くお伝え頂き、高教研会員の裾野をさらに広げて欲しいと思います。

末筆になりますが、今年度も財団法人新潟県教職員厚生財団及び公益財団法人日本教育公務員弘済会新潟支部からご支援をいただき、本会の運営費に充てています。紙面を借りて改めて感謝申し上げます。

今年度の高教研の運営にご尽力くださった各部長様、副部長様、関係の皆様方に深く感謝申し上げるとともに、本県高等学校の更なる発展を祈念して編集後記といたします。